

2020年（令和2年）度 事業報告

～支え合い、助け合い、励ましあって、つながる福祉～

社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会

（コラボネット宇治）

目 次

令和2年度 ふりかえり……………2

第1章

第4次地域福祉活動計画の策定を通して地域福祉課題の把握と整理を行い、今後の活動のあり方を提起します……………4

第2章

地域福祉を推進する市民の拡大と、活動者同士の相互交流等による課題解決力を高めます……………5

第3章

各種相談から、生活課題、地域福祉課題の把握と解決を図ります……………35

第4章

法人運営と財源づくりの強化に努めます……………49

【アイコン表示について】各活動の財源が分かるアイコンを表示しています。

**宇治
社協**

会費収入等の独自財源、基金の運用益を元にして実施する事業に表示。

**赤い
羽根**

赤い羽根共同募金の配分金で実施する事業に表示。

**歳末
募金**

歳末たすけあい募金の配分金で実施している事業に表示。

**利用
負担**

参加者や利用者からの負担金により実施する事業に表示。

**補助
委託**

宇治市や京都府社協からの委託金や補助金、助成金により実施する事業に表示。

令和2年度 ふりかえり

令和2年度は、

- (1) 地域福祉活動計画の策定プロセスを通じ、「地域で必要とされていること」の把握と、それに取り組んでいくために必要なこと(条件)を明らかにする。
- (2) きょうと地域福祉実践交流会を通して、市内の地域福祉実践の事例の把握と学習をし、そこから「支え手」の支援のあり方を学区福祉委員会や宇治ボランティア活動センター等への支援、協働により検討をしていく。
- (3) 地域共生社会推進事業の助成や各種相談から、生活課題、地域福祉課題の把握につなげる。
- (4) 地域福祉活動を支える財源のあり方等を検討する。

の4点を重点項目に掲げ取組みを進めてきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が拡大し、4月には緊急事態宣言が出されました。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、令和2年3月25日から、収入減などの世帯への緊急特例貸付が始まりました。新型コロナウイルス感染症は、地域福祉推進の中で培ってきた「対面での人と人とのふれあい」を難しくさせ、当初予定されていた行事や活動も、中止や延期が余儀なくされることになりました。地域福祉活動は、地域住民が決めていくことではありますが、新型コロナウイルス感染症という未知の病の中で、行事の中止、延期、再開の、どの判断にも、正解がない状況が続いています。そのような中、少しずつではありますが、オンラインなどの活用による地域福祉活動なども展開されてきており、地域福祉活動の「方法」にも変化が出てきています。

(1)では、地域福祉活動計画策定委員長の志藤修史先生から助言をいただきながら、4月の緊急事態宣言下での「緊急アンケート」として、地域福祉活動のリーダーや当会でかかわっている事業の利用者や世帯に電話で聞き取りを行いました。その中で語られていることは、これまでの地域福祉活動への「思い」と「誇り」とともに、人と人の直接的なふれあいが難しくなる中での、「つながり」を保つための創意工夫でした。さらには、地域福祉活動への「課題」も語られました。その多くが、これからの活動をどう次世代につないでいくかということであり、地域福祉活動の「継続性」に関する課題を明確にできたといえます。

そして、緊急アンケートの中、つながりを保つ創意工夫を知ったことで、5月にはサロンに、6月には学区福祉委員会に向けて、メッセージや指針を発出しました。

(2)では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、宇城久の社会福祉協議会が開催の中心となる「きょうと地域福祉活動実践交流会」は、5月に次年度への延期が決定されました。このため、企画立案にかかる市内の実践事例の再確認などはできていません。また、地域福祉活動自体が中止や延期されているところが多くありました。しかし、(1)で述べた「緊急アンケート」では、「活動」として認識はされていないものの、「つながり」を保つための創意工夫がたくさんあることが判明しました。SNSを活用したグループの中での情報交換、手作りマスクや脳トレなどの資料をポスティング、買い物や洗濯などの普段の暮らしの中での見守りなどがその一例です。コロナ禍で、つながりづくりの意義が再確認でき、その必要性も感じたという意見もありました。

協働しながら取り組んだことは、地域共生社会推進事業の取組みで、宇治ボランティア活動センターと一緒に個人登録者に対してアンケートを行ったことです。そのことは、ボランティア活動の促進や、活動をしたいと思っている人へのきっかけづくりのあり方などにつなげています。

(3)では、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、京都府社会福祉協議会からの委託にて実施した、生活福祉資金の「緊急小口資金特例貸付」と「総合支援資金特例貸付」が挙げられます。令和3年3月末までで、のべ3,400件を超える申込みを受けています。これは通常の40倍以上の件数となっており、特にスピーディーな対応が求められました。申込世帯の特徴をみると、年金が少ないことからの70代の働き手の多さ、70代の親と40代を中心とする就職氷河期世代の非正規雇用の子からなる世帯の多さ、一般の生活福祉資金の相談と異なり若年層からの申込みの多さなどが浮き彫りになってきました。これは、「地域福祉課題」の掘り起こしでもあり、「社会的課題」の掘り起こしでもあります。その整理をしながら、当会の役割発揮が求められています。

そのほか、福祉サービス利用援助事業等の相談でも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、相談件数が多くなっています。地域共生社会推進事業の助成においてもコロナ禍での活動への助成申請がありました。コロナ禍で活動をさらに再確認し、考え方を整理したり、新たな取り組みを始めたところもあり、社会状況の変化を的確にとらえて地域福祉課題の発見や対応をされている団体もありました。

(4)では、活動財源として不可欠である当会の会員募集が、コロナ禍で展開できにくくなっています。また、緊急事態宣言を受けて、公共施設等が休館することにより、自動販売機の利用が減少したこともあります。財源づくりとともに、収支構造や地域福祉活動に伴う財源のあり方についても、議論が必要です。

これらのふりかえりと、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの地域福祉活動の促進、福祉人材の確保の難しさと働く環境の大きな変化の中で、よりいっそうの「自治」に根ざした、住民の主体性を大切にする活動と、共に生きる社会をつくっていくことを目指していきます。

第1章 第4次地域福祉活動計画の策定を通して地域福祉課題の把握と整理を行い、今後の活動のあり方を提起します

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みながら、第4次宇治市地域福祉活動計画の策定について協議しました。また、コロナ禍での地域福祉課題の把握のための緊急アンケートを通じて、改めて人と人とのつながりを絶やさないことの重要性が広く認識されました。

(目標と実施した取組み)

1. 第4次宇治市地域福祉活動計画の策定



目標／策定と策定後、継続した地域福祉活動へのふりかえり

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、ワークショップ等を行うことができないことを鑑み、委員長(志藤修史先生)と協議の上、令和2年度の策定を1年延長することを提案し、書面にて確認をしました。

宇治市で策定される地域福祉計画においては、共同事務局として会合に参加(令和2年11月11日、12月16日、令和3年3月26日)したほか、当会としてもアンケート調査に協力しました。3月の会合には、アンケートの速報値が出されているため、その内容を把握し、計画づくりに活かしていきます。

2. 緊急アンケート「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動状況」の実施



目標／コロナ禍における活動者、利用者の思いや状況把握とコロナ禍の活動指針作成

緊急事態宣言が出され、多くの活動が中止、休止を余儀なくされた4月に、緊急アンケート「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動状況」を調査しました。本調査は、活動者約250名、当会でかかわりのある事業(介護予防普及啓発事業、福祉サービス利用援助事業、学習支援事業)の利用者(世帯)約200名を対象に電話にてアンケートを行いました。

本調査は、緊急事態宣言を受けて、活動者が「今」何を思っているのかや、利用者の「今」の思いを受けて、今後どのような活動が必要なのかを明らかにし、地域活動支援に役立てていくことを目的としたものです。それは、平成24年の京都府南部地域豪雨災害で、災害ボランティアセンターの運営に集中した結果、地域で行われていることに目を向けられず過ごしてきた当会の「反省」を活かし、「今」にこだわって実施することにしました。また、本調査は、地域福祉活動計画に活かすこととして、委員長に助言をいただき実施しました。

調査結果は、報告書としてまとめ、理事会評議員会での報告のほか、宇治市にもご協力を得て、市長への報告機会を設けていただきました。市長からは、本調査報告を、当会の活動に活かすだけでなく、地域福祉計画へ活かしていただきたいとの言葉をいただきました。また、それを受けて5月には、ふれあいサロンに対して、宇治市共同募金委員会と協働で活動に対する考え方等について、お知らせをしたほか、6月末には、学区福祉委員会に向けて、「人と人とのつながりを絶やさないように～これからの学区福祉員会活動について～」を発信し、コロナ禍だからこそ考えていき

いことを提起しました。報告書を作成後、あるサロンから、「それぞれのサークルのリーダーが苦勞しておられる様子を感じ取ることができて、大いに力づけられた」、「活動の必要性が一層高まっており続けて活動する体制の重要性を再認識した」という趣旨の「お礼状」が届きました。

報告書は、京都府社会福祉協議会の京都ボランティアバンク助成金を活用し作成しました。そして、協力をいただいた団体に配布したほか、ホームページに公開し、広く周知をしました

リンク先 (<https://tinyurl.com/dkwfkref>)



←報告書は、こちらからも読み取れます。

第2章 地域福祉を推進する市民の拡大と、活動者同士の相互交流等による課題解決力を高めます

コロナ禍においても、学区福祉委員会や宇治ボランティア活動センターを始めとする各種の地域福祉・ボランティア活動団体との連携を通じて、地域福祉を推進する市民の拡大に努めるとともに、コーディネート力を活かし、課題解決に向けた「出会い」や「つながり」づくりを行いました。

(目標と実施する取組み)



1. 学区福祉委員会等住民主体による活動への相談と支援

目 標／地域福祉課題を把握し、活動者への提起をはかる

宇治市学区福祉委員会連絡協議会と連携した活動者のすそ野拡大

取組み／学区福祉委員会等と連携した地域福祉課題の調査、研究

学区福祉委員会連絡協議会(年2回代表者会議開催)と連携した参加者の拡大

(1) 学区福祉委員会への支援・協働

地域担当者4名で宇治市内21の学区福祉委員会と1地区社会福祉協議会(西小倉学区・北小倉学区・南小倉学区)を担当して、役員会等への参加や活動への情報提供など、各小学校区の地域福祉活動が発展するようコーディネーターとしての支援活動を行いました。

各学区福祉委員会においては、主に一人暮らし高齢者等の訪問や給配食活動を通じた見守り活動を展開しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、集会所等での会食会は、中止を余儀なくされました。そのような中でも福祉委員で協議を重ね、事前に訪問で対象者に呼びかけ、会食会場でお弁当を渡すスタイルで見守りと配食の活動を維持する地域もありました。当会地域担当者からの情報提供により、他の地域でも同様の取組みが広がりました。ブロック単位で実施する地域、サロン活動で取り入れたところなどもありました。

一人暮らし高齢者等への訪問活動は、コロナ禍においても各地域で例年通りの取組みを展開されました。外出機会が制限されると高齢者の健康状態に変化がみられる、このような時だからと、安心カードを作成し、地域の高齢者を訪ね、地域での声かけでつながりを強化されたところもありました。

新型コロナウイルス感染症を常に意識しながらの地域でのつながりづくりについて、それぞれの学区福祉委員会ではどのように活動を行うべきか、年間を通じて何度も協議を重ねられました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全ての学区福祉委員会において、従来通りの活動ができず、中には、学区福祉委員会の全ての活動を休止しようという声もありました。その中で、当会の地域担当者として、コロナ禍だからこそ、日頃の活動で培ったつながりを絶やさないために、「本来の活動の趣旨がどこにあるのか」「改めて、どのような方法であれば活動が可能か」について、他学区の取組み紹介などを交えながら問いかける場面もありました。



いつもの会食会の代わりに、「お変わりありませんか」とお弁当を受取りに来た方に声かけをして、近況を伺っている福祉委員

(学区福祉委員会支援のための各種補助金)

種類	目的	補助金額等
①福祉活動費	学区福祉委員会の運営費、活動費	各小学校区の市社協会費・寄付金の20%及び事業所会費の40%を交付
②事業費補助金	地域ごとに特色のある地域福祉活動にかかる活動費	1学区あたり、4事業実施で上限175,000円
③一人暮らし高齢者訪問活動事業補助金	月1回以上の訪問や生活支援時に配布する記念品等に要する費用	対象者1人につき年額1,000円
④一人暮らし高齢者給配食事業補助金	一人暮らし高齢者等への声かけ、見守りを兼ねた給配食活動の費用	1食あたり350円
⑤歳末たすけあい「ふれあい」事業補助金	年末、年始に行われる見守り活動、住民交流事業等に要する費用	対象者1人につき年額1,000円(上限150人) または1学区上限130,000円

(学区別一人暮らし高齢者等訪問事業)

学区名	訪問実績対象者数(名)		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
宇治	174	171	177
岡屋	96	102	100
南部	143	148	138
菟道	167	156	138
菟道第二	151	144	147
神明	175	175	175
大開	113	113	113
大久保	27	23	22
西大久保	98	101	94
伊勢田	127	122	132
小倉	207	185	174
西小倉地区社協	85	89	86
槇島	202	235	259
訪問対象者数	1,765	1,764	1,755

(学区別一人暮らし高齢者等給配食事業)

学区名	給配食実績数(食)		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
御蔵山	162	144	141
宇治	985	1,032	1,156
岡屋	138	156	63
南部	317	345	-
三室戸	557	581	594
菟道	135	74	177
菟道第二	252	233	243
神明	600	843	618
大開	458	356	258
大久保	580	259	52
平盛	180	190	-
伊勢田	135	131	-
小倉	589	622	387
西小倉地区社協	1,721	1,618	-
槇島	1,338	1,200	869
北槇島	139	145	-
合計	8,286	7,929	4,558

※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1度目の緊急事態宣言後、(令和2年3月)、給配食については、14学区が中止し、訪問活動については、5学区で一時中止となりました。

(令和2年度 地域ひとつなぎ事業の助成状況)

	団体名	戸別 訪問	配食	電話	その他	助成額(円)
1	特定非営利活動法人善法雇用促進協議会	○				40,000
2	南遊田第一喜老会	○				20,000
3	開地区喜老会	○	○	○	○	20,000
4	アルス・シルバー会	○	○	○	○	20,000
5	名木喜老会	○				20,000
6	南部学区福祉推進委員会	○		○	○	40,000
7	南陵町喜楽会	○	○	○		30,000
8	一里塚さわらび会	○	○	○		20,000
9	榎島東喜老会	○				20,000
10	神明学区福祉委員会	○	○	○		40,000
11	小倉喜老会	○		○	○	20,000
12	きらきらクラブ	○	○	○		30,000
13	城南荘喜老会	○			○	30,000
14	砂田喜老会	○		○		20,000
15	伊勢田喜老会	○	○	○		30,000
16	西大久保自治喜老会	○	○	○		30,000
17	宇治学区福祉委員会	○	○	○	○	40,000
18	神明栗駒喜老会	○		○		20,000
19	サポーターセンターきんと雲	○		○	○	30,000
20	西岡屋喜老会	○	○	○	○	20,000
21	南大久保喜老会	○	○	○	○	20,000
22	大和田もみじ会	○	○	○	○	20,000
23	西小倉地区寿喜老会	○		○	○	20,000
24	心ぽかぽか和みの会	○		○	○	30,000
25	中宇治喜楽会	○		○	○	30,000
計	25 団体	25	12	20	13	660,000

(2) 木幡学区福祉委員会解散後の木幡地域への関わり

令和元年度に引き続き、木幡地域の“いま”や“思い”を語り合い、「こんなのがあればいいな」「こんな活動ができたらいいな」を共有し、学び合う懇談会を実施しました。

令和2年度は、懇談会で出た意見を具体的な企画として実践し、そこに参加した人を新たなメンバーとして迎え入れながら、令和3年度からの展開について検討しました。令和3年4月からは、木幡学区内の住民誰でもが立ち寄れ、交流や情報交換を行ったり、志を同じとする人同士で、新たな動きや活動を生み出していくきっかけづくりとなる交流拠点の開設が決まりました。

(木幡地域懇談会参加メンバー)

六地蔵駅前の花壇整備などをされているグリーンボランティア/地域のふれあいサロン活動者/地元の民生委員/介護者家族の会や地元の木幡区の役員/木幡学区ウォークラリーへの参加を機につながった人

(開催内容) (参加者には事務局人数含まず。事務局は毎回2~4名参加)

日時	①令和2年6月18日(木)14:00~16:00 ②令和2年7月18日(土)9:30~12:00 ③令和2年8月18日(火)14:00~16:30 ④令和2年9月18日(火)14:00~16:15 ⑤令和2年10月12日(月)9:30~12:30 ⑥令和2年10月18日(水)9:30~12:30 ⑦令和2年11月18日(水)14:00~16:00 ⑧令和2年12月18日(金)14:00~16:15 ⑨令和3年1月18日(金)14:00~16:15 ⑩令和3年2月18日(木)9:30~12:30 ⑪令和3年3月18日(木)14:00~16:15
場所	①、③、⑦、⑧、⑩コミュニティワークこはた館 ②、⑥、⑪木幡地域福祉センター ④六地藏公会堂 ⑤、⑨六地藏南集会所
目的	地域住民の思いを形にしながら、地域に関心を持つ参画者の輪を広げる。
参加者	①6名 ②6名 ③6名 ④5名 ⑤5名 ⑥25名 ⑦11名 ⑧8名 ⑨9名 ⑩9名 ⑪8名
内容	①~⑪を通じて ・木幡地域懇談会の方向性の確認 ・木幡地域懇談会の名称を、「ふらっと立ち寄れる場づくり」「立場に関係なく誰もがフラットに話せること」を由来に「コラボプラザ~ふらっとこはた~」に決定。 ・LINE ビジネスを活用した情報集約・発信の方法の導入 ・ウォークラリー開催に向け、地元の製茶農家への相談、開催チラシ、ポスター準備、申込受付、各拠点の概要確認、雨天時・トイレ対応などについて協議。 ・ああ!木幡にもこんな所あったんやウォークラリーの開催(10月18日) ・懇談会参加者同士にて、木幡学区内の身近な情報やできごとの共有 ・「ふらっと立ち寄れる場」(以下、交流の場)づくりに向けて、全体イメージの共有 ・交流の場を4月から開始する。場所は木幡地域福祉センターを予定。 ・交流の場の具体的な内容、準備に向けての意見交換 ・交流の場の開催は毎月第4土曜日として、1回目は4月24日(土)に決定
実施して	地域の福祉課題に限らず、住民同士で、地域のことについて、フラットに語り合い、学び合い、共にやってみるを繰り返す場をつくり、自らの意志で地域活動に参画してくれる人の輪を広げていくことを目標に懇談会を行いました。毎回、木幡地域でのできごとを共有したり、住民に関心を持ってもらうための企画やアイデアを出し合いました。10月に開催した「木幡地域ウォークラリー」では、改めて「地域を歩く」というテーマ設定をした中で、「健康」に対する関心が高い人が多いことがうかがえました。また、「歩く」をキーワードに、人と人との出会いがあったり、地域の活動に関心を持ってもらいやすいという発見がありました。ウォークラリーへの参加をきっかけに、新たに懇談会に参加する人や地域をめぐる中で紹介した活動に「参加してみたい」という人も出てきました。今後は、ふらっとこはたとして、定期的な交流の場を開き、地域の中での顔みしりづくりをしながら、住民の関心事を捉え、また、それを発信して、その事に関心のある人たちが語り合い、自分事として何らかの取組みにつながっていくような環境づくりを進めます。

(3) 学区福祉委員会連絡協議会への支援

学区福祉委員会連絡協議会（以下、学区連協）の事務局として、二役会（3回）役員会（2回）や代表者会議（2回）の運営を支援し、当会からの運営費補助を元に下記の事業に組み組むとともに、外部団体（宇治市要保護児童対策協議会、宇治市共同募金委員会、宇治市地域福祉推進委員会）への委員を選出しました。

学区福祉委員強化月間（2月1日～3月31日）として、福祉委員募集ポスターを各学区福祉委員会に配布し、市政だよりへの掲載（3月15日号）、社協だより（3月15日号）で福祉委員募集の記事掲載を行いました。その結果、3月末で福祉委員への新規加入33名、退会67名という結果となりました。また、各学区福祉委員同士にて、それぞれの活動を参考にできるように、即時的に情報共有するためのLINEアカウントを作成しました。

(役員会)

日時	①令和2年9月9日（水）13:30～15:00 ②令和3年2月3日（水）14:00～15:10
場所	①、②宇治市総合福祉会館
目的	①、②代表者会議に向けての確認
参加者	①役員4名、事務局1名 ②役員5名、事務局1名
内容	①令和2年度の事業について等 ②交流研修会の開催に向けて
実施して	新型コロナウイルス感染症の影響で、学区福祉委員会がどのような悩みを持っているのか、学区福祉委員会連絡協議会としてどのような取組みで応援できるのかについて話し合いをする機会となりました。

(代表者会議)

日時	①令和2年6月30日（火）19:00～21:00 ②令和2年9月30日（水）19:00～21:00
場所	①、②宇治市総合福祉会館
目的	新型コロナウイルス感染症拡大を防止しながら、各学区福祉委員会がどのような取組みを行っているのか、学区福祉委員会連絡協議会としてどのような事業が必要かについて確認する
参加者	①学区福祉委員会代表者19名（18学区）、事務局4名 ②学区福祉委員会代表者17名（17学区）、事務局4名
内容	①役員選出について、令和2年度の事業・予算について ②令和2年度の学区福祉委員会連絡協議会の具体的な取組みについて ③令和2年度の各学区福祉委員会の取組み内容についての共有
実施して	各学区福祉委員会の取組み状況についての確認と共有をする機会になりました。また、幹事会等の会議の場でなくても、各学区福祉委員会の活動内容を即時的に知ることができるように、学区福祉委員会連絡協議会でLINEアカウントを作成し、情報共有する仕組みづくりを行いました。LINEの登録者は41名です。今後も即時的に情報提供をできることを目指し発信していきます。令和3年度は、交流研修会の実施や、学区福祉委員会を動画で紹介する取組みを進めます。

(交流研修会の実施)

日時	令和3年2月21日(日)10:00~12:00
場所	宇治市総合福祉会館
目的	新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの事業が実施できない学区福祉委員会が多くありました。コロナ禍でも、工夫を凝らして実施されている活動状況の情報共有と、ソーシャルディスタンスを保ちながら行えるレクリエーションについて学んで頂くことを目的としました。
参加者	学区福祉委員30名
内容	①コロナ禍でもできるレクリエーション 京都府レクリエーション協会 今西 啓員氏 ^{ひろかず} ②コロナ禍での学区福祉委員会の取り組み 各学区福祉委員会からの情報発信・共有
実施して	レクリエーションについて学ぶことと、各学区福祉委員会の取組みを情報共有することができました。今後の各学区福祉委員会の活動について、「参考になることが多くあった。」という声もあったことから、他の学区福祉委員会活動の情報提供が求められていることがわかりました。この声は、今後の学区福祉委員会連絡協議会の支援に活かしていきます。

2. Hot!ふれあいサロン活動の相談・支援



目標/Hot!ふれあいサロン(以下、サロン)活動を通じて地域福祉への参画を募る活動をしやすい環境を整える。

取組み/サロン活動者の支援としての研修会の実施
サロン活動に関する情報提供

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出され、集会所等の会場が使えない状態となり、サロン活動を自粛せざるを得ない状況が続きました。そのような中でも試行錯誤しながら、つながりを絶やさない活動(訪問活動や電話、オンラインツールを活用した見守りなど)を続けてこられました。室内で活動を実施する場合は、マスク着用、手指の消毒、人数制限や二部制・時間短縮など、感染対策をしながら開催されました。室内ではなく、公園など屋外での活動を積極的に取り入れられたサロンもありました。コロナ禍で、「対面でのコミュニケーションの大切さを改めて感じた」という声もあり、厳しい状況化でも地域の方々とのつながりを大切にされていることがわかりました。しかし、一方で、コロナ禍を機に活動を終了されるサロンもありました。

(1) サロン助成金交付推移と一覧

サロンへの助成は平成29年度までは、当会にて行っていましたが、平成30年度からは、サロン助成金の配分元である宇治市共同募金委員会が直接助成する方式に変更となりました。

令和2年度は、104グループからサロン申請(助成金申請サロン96件、登録サロン8件)がありました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、活動を見合わせたサロンが3件ありました。また、助成金の交付決定後にも、新型コロナウイルス感染症の影響を受け1件の助成金辞退がありました。結果、助成金交付は95件となりました。しかし、コロナ禍で、サロン開催を休止されたなどにより、4サロンから47,806円の返金がありました。

(サロン登録内訳) 全体104件

(単位:件)

サロン分類	高齢者	障害者	子育て	多世代(高齢・障害・子育て・児童)	その他
所数(割合)	78(74%)	1(1%)	10(10%)	13(13%)	2(2%)

(サロン登録数及び助成金交付の推移)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
助成金総額(円)	3,289,000	3,283,000	3,100,000 ※返金後額 3,052,194
サロン数(登録のみ)	114(7)	110(8)	104(8)
新規登録数	9	8	2

(登録・助成金交付サロン一覧)

	登録	サロン名	類型	会場校区	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1		榎島ホットサロン	テーマ	榎島	49,000	49,000
2		HOTふれあいサロンかようかい	地縁	小倉	55,000	55,000
3		一福会	地縁	南部	37,000	37,000
4		野神ふれあいサロン	地縁	菟道第二	19,000	19,000
5		うたごえ喫茶のびのび	テーマ	宇治	19,000	19,000
6		ホットサロンやすらぎ	地縁	榎島	37,000	37,000
7		サロン風車	地縁	宇治	19,000	19,000
8		Hot!ふれあいサロン「京かのこ」	地縁	木幡	19,000	19,000
9		ミニホットサロンひまわり	地縁	大久保	19,000	19,000
10		サロン広芝	地縁	宇治	13,000	13,000
11	○	御蔵山サロン	地縁	御蔵山	-	-
12	○	明星ホットサロン	地縁	三室戸	-	-
13		サロンピノキオ	地縁	木幡	19,000	19,000
14		HOT 蔭山サロン	地縁	小倉	19,000	19,000
15		ほっとふれあいサロンひまわり	地縁	宇治	10,000	10,000
16	○	よもやま会	地縁	北小倉	-	-
17		おこしやす	地縁	宇治	25,000	25,000
18		ともしび	地縁	西大久保	43,000	43,000
19		HOTふれあいサロン権現	地縁	菟道第二	19,000	19,000
20		HOT!ふれあいサロンユートピア	地縁	御蔵山	25,000	0
21		フレンドサロン	地縁	南部	19,000	19,000
22		南山ふれあいサロン	地縁	御蔵山	37,000	37,000
23		もみじ会	地縁	大久保	19,000	19,000
24		わかば会	地縁	榎島	19,000	19,000
25		折鶴サロン	地縁	菟道	36,000	36,000
26		どんぐりっこ	テーマ	伊勢田	55,000	55,000
27		喜楽会	地縁	榎島	19,000	19,000
28		ポヨポヨキッズ	テーマ	菟道第二	37,000	37,000

29		わんぱくクラブ	テーマ	大久保	55,000	55,000
30		ドラえもんサークル	テーマ	小倉	55,000	55,000
31		サロンお茶の子会	地縁	南部	19,000	19,000
32		ほっこりスペース あい	テーマ	御蔵山	55,000	55,000
33		HOTふれあいサロンあじさい	地縁	小倉	49,000	49,000
34		パルーンクラブ	テーマ	小倉	43,000	43,000
35		Toddlers ~トドラーズ~	テーマ	小倉	43,000	43,000
36		華連グループ	地縁	神明	19,000	19,000
37	○	ふれあいサロン“はる”	地縁	木幡	-	-
38		むらさき気楽会	地縁	榎島	55,000	55,000
39		ホットサロンゆうゆう	地縁	岡屋	24,500	24,500
40		ズンドコサロン	地縁	西大久保	30,000	30,000
41		ふれあいサロンやよい	地縁	木幡	19,000	19,000
42		フリースペース「おやすみ」	テーマ	西小倉	55,000	55,000
43		白寿お茶飲み会	地縁	宇治	19,000	19,000
44		くりくま健功会	健康	大久保	37,000	37,000
45		楽しく料理を作ろう会	テーマ	北榎島	19,000	19,000
46		北榎ハーモニー	地縁	北榎島	36,000	36,000
47		イキイキ教室203	健康	小倉	31,000	31,000
48		サロン妙楽	地縁	菟道	19,000	19,000
49		北内Hot!ふれあいサロン	地縁	榎島	25,000	25,000
50		子育てママのアカラグループ Twinkle Tweety	テーマ	岡屋	55,000	55,000
51		サロン車田	地縁	南部	19,000	19,000
52		ハモフレ	テーマ	神明	55,000	55,000
53		開ひまわり会	健康	神明	37,000	37,000
54		井戸端かふえ・まんぷくじゃ	テーマ	宇治	37,000	37,000
55		丸山はづきの会	地縁	南部	19,000	19,000
56		下村ほっとサロン	地縁	榎島	25,000	25,000
57		ホットふれあいサロンつるかめ	地縁	榎島	19,000	19,000
58		ほっとほっとサロン	地縁	宇治	19,000	10,109
59		色えんぴつ	地縁	御蔵山	55,000	55,000
60		多文化コミュニティグループ さらだぼうる	テーマ	菟道第二	37,000	37,000
61		おやこサロン にこにこたち	テーマ	菟道第二	19,000	19,000
62		ワクワク光	地縁	菟道	19,000	19,000
63		サロン榎の島	地縁	榎島	25,000	25,000
64		ふれあいサロンなでしこ	地縁	小倉	37,000	30,808
65		サロンふれあいの森	地縁	北榎島	55,000	55,000
66	○	楽老会	地縁	木幡	-	-
67	○	ふれあいひろば	地縁	岡屋	-	-
68		冒険遊び場うさぎはらっぱであそぼうよ!	テーマ	宇治	19,000	19,000
69		天神台ふれあいサロン絆	健康	神明	37,000	37,000

70		Hot!ふれあいサロン田原	地縁	西大久保	19,000	19,000
71		友和会	健康	小倉	19,000	※辞退により0
72		サロン白川	地縁	菟道	25,000	25,000
73		ふれあいサロン川東	地縁	菟道	37,000	37,000
74		サロン絆	地縁	伊勢田	31,000	31,000
75		菟道北ふれあいサロン	地縁	宇治	55,000	45,777
76		サロンいきいき	健康	榎島	55,000	55,000
77		文化サロン「ゑん」	テーマ	大久保	19,000	19,000
78		落合元気アップ教室	健康	北榎島	31,000	31,000
79		サロン「水仙」	地縁	神明	19,000	19,000
80		福寿会	地縁	南小倉	13,000	13,000
81		あおぞら会	健康	木幡	19,000	19,000
82		ユニ宇治ふれあいカフェ	地縁	岡屋	19,000	19,000
83		放課後山の遊び場 KULKUL	テーマ	笠取第二	55,000	55,000
84		アルス、シルバー会	テーマ	木幡	31,000	31,000
85		羽戸山サロン	地縁	宇治	49,000	49,000
86		Hot 蔭山縁が和サロン	地縁	小倉	37,000	37,000
87		なかよし会	健康	木幡	31,000	31,000
88		ホットサロン月夜	地縁	榎島	31,000	31,000
89		イキイキの会	健康	榎島	37,000	37,000
90		南陵台唄声サロン「和み」	地縁	小倉	49,000	49,000
91		わかさ会	健康	菟道	20,000	20,000
92		城南荘 木曜カフェ	地縁	大開	37,000	37,000
93		金曜サロン	地縁	岡屋	55,000	55,000
94		サロン山の家	テーマ	笠取	55,000	55,000
95		かもめサロン麻雀倶楽部	地縁	大開	37,000	37,000
96		カフェすみやま	テーマ	笠取第二	31,000	31,000
97		笑う門には福来るの会	健康	神明	19,000	19,000
98		南陵町健康サロン「健やか」	健康	小倉	37,000	37,000
99		楽楽クラブ	テーマ	菟道	37,000	37,000
100		むらさき気楽会(木曜日)	健康	榎島	55,000	55,000
101		おこしやす	地縁	神明	19,000	19,000
102	○	サロン神明	地縁	神明	-	-
103		ユニエスさくら	健康	菟道第二	55,000	55,000
104	○	みんなのおうちカフェ 空	地縁	南小倉	-	-

(2) サロン研修会の開催

新型コロナウイルス感染症で対面での活動に制限を受ける中で、オンラインツールによる新たなつながりづくりを学ぶための研修会を開催しました。

(サロン研修会の実施)

※B リハボランティア研修を兼ねての実施

日時	令和2年12月22日(火) ※午前・午後 同内容で2回開催 午前の部 10:00~12:00 午後の部 14:00~16:00
場所	宇治市総合福祉会館 3階 大広間
目的	コロナ禍の中でも、人と人のつながりを絶やさないよう、日頃のボランティア活動の中に様々なコミュニケーションツールを活用したつながりづくりの方法を取り入れられるようにする。
参加者	午前10名・午後9名
内容	～サロンにいかそう 新しいつながり方を学ぼう～ 講師;ソフトバンク株式会社 コロナ禍による感染防止のため、1テーブルに1名ずつ着席し、参加者1人に1台のタブレットを割り当て ZOOM の体験を行いました。 ZOOM を利用して、会議に参加や主催する方法、バーチャル背景を活用する方法、ユーチューブを見る方法を学びました。
実施して	タブレットに慣れてないという参加者もおられました。全員で ZOOM を体験することができました。自分たちの日々の活動に即時使えるように、積極的に質問をされている方もおられました。ZOOMに関心のある男性の参加者も多かったことから、サロンに男性が参画するひとつのきっかけとして捉えることができました。対面での活動が困難な時でも、つながりを絶やさないようにできる新たなコミュニケーションツールのひとつとして、地域の中で活用が期待できます。

サロン研修会の様子



午前の部



午後の部

3. 住民と協働による宇治ボランティア活動センター運営による地域福祉の推進

宇治補助
社協委託

目標/住民主体による運営への支援と地域福祉推進としての連携協働

取組み/住民との協働によるボランティア活動センターの運営

ボランティアコーディネートの強化によるボランティア活動センターとの連携による地域福祉活動の人材育成 (NEW)

(1) 宇治ボランティア活動センター運営委員会へのかかわり

宇治ボランティア活動センター(以下、活動センター)では、毎月役員会と運営委員会が定例開催されています。当会事務局からは職員が1名、運営委員として参加し、役員会への出席、運営委員会への情報提供、ボランティア活動センター宛の文書の受付や他機関からの依頼事項の伝達、催しの広報活動、各種申請手続き、運営委員間の連絡調整等を行いました。当会としては、市民とのパートナーシップを大切に、活動センターの協働運営に重点を置いていることから、運営委員が主体的に活動センターを運営するために必要な支援や、当会の取組みへの参加協力の調整

を行いながら、地域福祉の推進やボランティア活動の拡充を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、社会や人の動きが制限された中で、逆に時間が生まれたり、今だからこそ新しいことにチャレンジしようという思いから「何かのボランティア活動をしてみたい」という相談が多く見られました。一方で、ボランティア団体の多くで活動休止があり、社会福祉施設でもボランティアの受入れを見合わせるなど、活動希望者をつなぐ先の調整に苦慮しました。そのような中、コロナ禍でも、いつもと違う形で継続していることも食堂や子育て支援のNPOなど、当会が日ごろやり取りをしている団体にボランティア活動者を受入れていただいたり、当会が実施している介護予防普及啓発事業に参加してもらうなどの調整を行いました。

また、活動センターとの協働により、個人登録ボランティアの思いや活動の実態を把握して、今後のボランティアコーディネートのある方を検討するために、個人登録ボランティア191名に「ボランティア活動への参加に関するアンケート」の送付を行いました(第3章記載)。合わせて、若者や働く層の人たちがボランティア活動に参加するにはどうすれば良いかを考えるシンポジウムを開催しました。若い世代の人たちが感じている思いを直接聞くことができたことで、ボランティアを求めている活動団体側がどのように参加のきっかけづくりをすれば良いかのヒントを得る機会となりました。(第3章記載)

今後の活動センターの運営においては、約180名の個人登録者やボランティア活動を希望する人に対して、誰もが気兼ねなく参加できるボランティア体験の場づくりを進めながら、活動への参加で終わるだけでなく、主体的に参加してもらえるような関係づくりが必要です。

(2) 宇治ボランティア活動センターの運営委員会との協働による取組み概要

実施日(頻度)	事業名	実施場所
毎月1回	役員会	総合福祉会館
毎月1回	運営委員会(オンライン併用)	総合福祉会館
毎月11日	イエローレシートキャンペーン →新型コロナウイルス感染症拡大予防のため店頭での啓発活動は中止	イオン久御山
年数回	宇治市災害ボランティアセンターへの参画	総合福祉会館
奇数月	情報紙「パートナー」発行	総合福祉会館
奇数月第2日曜日	ボランティアマッチングサロン →5月、7月は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	総合福祉会館
例年6月予定 (中止)	宇治市障害者スポーツ大会への協力 →新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	西宇治体育館
例年6月予定 (中止)	団体・個人登録者会館清掃交流 →新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	総合福祉会館
8月6日(木) 3月12日(金)	宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議への参画 (何気ない地域の助け合いの意見交換)	総合福祉会館
10月1日(木)	赤い羽根共同募金への協力 →街頭募金活動への参加・グループ募金協力	宇治市内等
10月~12月	京都文教大学ボランティア演習による学生受入れ →春学期は新型コロナウイルス感染症の影響による授業中止のため受入れ無し	総合福祉会館

11月1日(日) (中止)	ボランティアフェスティバル&思いの駅伝 →新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	宇治市総合福祉会館
11月5日(木)	宇治源輝人(宇治市健康長寿サポーター)講座実践編でのボランティア活動センターの紹介	宇治市生涯学習センター
12月16日(水)	「はじめよう!セカンドライフ」講座	生涯学習センター
1月30日(土) (中止)	宇治市社会福祉協議会 新春福祉のつどい参加 →新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止	パルティール京都
2月20日(土)	助け合い検討委員会として、宇治市健康長寿フェスティバルの意見交流会に参加	宇治市生涯学習センター
3月7日(日)	運営委員研修「ZOOMの使い方」講座	総合福祉会館
3月中止	バリアフリー映画上映会 →新型コロナウイルス感染症の影響により7月実施予定(令和元年度延期分)を、3月に再延期するも、最終的に中止となった。	宇治市生涯学習センター

4. 加入団体と連携した宇治市災害ボランティアセンターの運営

補助 赤い
委託 羽根

目 標/日常の延長上にある「災害時」を意識し、災害時にも強いまちづくりに寄与する
取組み/総会や訓練、運営委員会において災害時を意識した「日常の関係づくり」を行う

災害時に、個人、地域、団体、組織等のつながりの力を活かせるよう、日ごろからの様々な「顔の見える関係づくり」を理念に掲げていましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、総会が書面審議になったり、研修会は運営委員に限定するなどの方法になりました。また、地域での会合等はすべて中止をされており、市民に向けたPRは対面ではできませんでした。一方で、運営委員会では、公務で参集参加が困難な運営委員がいることから、ハイブリッド(オンラインと対面の併用)型の運営委員会方法を取り入れ、コロナ禍でも取り組める手法を模索し続けました。

(1) 運営体制の強化

(総会)

書面での議決とし、6月に案内し、全団体から同意を得ました。

(運営委員会)

日 時	①令和2年7月29日(水)19:00~21:00 ②令和2年3月24日(金)19:00~20:30
場 所	いずれも、宇治市総合福祉会館
参加者	①会場参加12名 オンライン参加4名 欠席3名 ②会場参加9名 オンライン参加5名 欠席5名
内 容	①役員選出及び今年度の取組みの進め方について ②次年度の事業計画について ※2回目の日は、事前に集まったメンバー有志で、オンライン会議に慣れる会を実施しました。



(オンライン併用による運営委員会)

(運営委員研修会)

日時	令和3年2月7日(日) 10:00~12:00
場所	宇治市総合福祉会館・オンライン
内容	<p>話題提供／受援力を考える 講師;LOCALISM LAB. 井岡仁志氏(元高島市社会福祉協議会 職員) オンラインオペレーター;NPO 法人グローバル人材開発センター 肥後祐亮氏 運営委員同士で話し合い 共有とまとめ</p>
参加者	運営委員 13名(うち4名 オンライン参加)
実施して	<p>今回、オンラインとの併用を行うにあたり、加入団体にも協力をいただけないかと、運営委員の所属する加入団体にオペレーターとファシリテートのお願いを打診してみましたが不調に終わりました。しかし、団体の得意不得意をつかんだり、お互いにニーズを伝え合う機会になりました。内容には、「受援力」を挙げ、運営委員の「言葉の意味が分からない」というつぶやきから、テーマ設定ができました。井岡仁志氏には、災害支援の経験値からだけでなく、地域福祉と災害時の活動をつなげながらお話をいただくことで「平常時」がいかに大切かを学びあうことができました。</p>



(オンライン併用による運営委員研修)

(2) 京都府災害ボランティアセンターへの協力

【京都府災害ボランティアセンターへの運営委員としての参画】

日時	場所	内容
令和2年6月16日(水) 18:30~	ハートピア京都	第1回運営委員会
令和2年8月24日(月) 16:00~	オンライン参加	第2回運営委員会
令和2年11月7日(土) 13:30~	総合福祉会館	研修会参加
令和2年12月2日(水) 18:30~	ハートピア京都	第3回運営委員会

令和3年2月13日(土)13:30~	京都テルサ	研修会参加
令和3年3月2日(火)13:30~	京都テルサ	研修参加
令和3年3月10日(水)15:30~	ハートピア京都	第4回運営委員委員会
令和3年3月24日(水)10:00~	ハートピア京都	第5回運営委員会

【京都府災害ボランティアセンター研修会への参加】

日時	場所	内容
令和2年11月7日(土)13:30~	総合福祉会館	運営委員6名、 実習生2名、事務局1名
令和3年2月13日(土)13:30~	京都テルサ	運営委員2名
令和3年3月2日(火)13:30~	京都テルサ	運営委員3名

5. 当事者団体の支援を通じての地域生活支援



目 標／地域福祉課題を把握し、活動者への提起を図る

当事者団体と連携をした取組みを通じて、すそ野拡大、ニーズの発見を行う
取組み／助成金等を活用し当事者団体の運営相談

宇治市介護者の会と連携した在宅高齢者介護者リフレッシュ事業

(1) 当事者団体への支援

当事者団体の相談や支援、「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動状況」の緊急アンケートにてコロナ禍での状況把握を行いました。また、当事者の声や意見を聴き、課題解決のために活動をしている団体へ、宇治市共同募金委員会が実施する「赤い羽根コラボ助成(第3章記載)」と連携協働して支援を行いました。宇治市からの補助による「宇治市福祉未来基金地域共生社会推進事業(第3章記載)」や当事者の声を活かした介護者リフレッシュ事業を始めとする取組みを実施しました。

緊急アンケートでの聞き取りの際には、団体の代表者の方から、「定期的に集まることができていたが、今回の新型コロナウイルス感染症で、できなくなってしまった。定期的な集まりがなくなること、人と人との関係が途切れてしまうことを危惧している」との意見を伺いました。一方で、このような時だからこそ、自分たちが困ることを市民に発信をしていきたいというお声も伺いました。今後も、それぞれの不安や、期待に寄り添えるよう取組みを進めます。

(2) 在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

在宅高齢者介護者リフレッシュ事業は、市内の要支援や要介護認定を受けている高齢者を在宅で介護されている人たちのリフレッシュと、介護者同士の相互交流を目的に年6回開催することで企画・準備を進めました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、交流企画は1回中止、2回実施、レクリエーション企画は3回中2回の実施という結果になりました。

いずれの企画においても、宇治市介護者(家族)の会の協力のもと実施しました。交流の時間等での進行をはじめ、企画段階から様々なご協力をいただきました。

令和2年度も市政だより・社協だよりへの掲載、チラシでの案内や公共施設での配架などの方法で周知を図りました。また、福祉サービス関係者を通じての介護者への情報発信を重点化したことと過去の参加者にもダイレクトメールで案内を行いました。

コロナ禍での開催となり、総じて参加者は多くはありませんでしたが、家族の健康状態の急変から突然家族を介護することになった参加者がまだ気持ちの整理ができないままに思いを吐露する場面もありました。宇治市介護者(家族)の会の皆さんの経験やお力を借りながら、その思いに耳を傾け、互いに気持ちを共有しあう時間を持つこともできました。

(宇治市在宅高齢者介護者リフレッシュ事業)

企画種別	回数	開催日	内容	定員	参加者数
交流企画	第1回 (中止)	9月8日(火)	城南勤労者福祉会館にて アコースティックギターデュオ 「Michiyo&オワ」のミニライブと 参加者交流会 →新型コロナの影響で中止	40	-
	第2回	10月30日(金)	宇治市総合福祉会館にて 介護経験談と参加者交流の時 間、介護者のための健康づくり 講座(栄養士)	40	6
	第3回	12月15日(火)	木幡公民館にて 介護者のための健康づくり講座 (歯科衛生士)と参加者交流の時 間、ハンドマッサージ体験	40	7
レクリエーション企画	- (未実施)	7月15日(水)	バスでよしもと祇園花月へ 大いに笑ってリフレッシュ 車中交流会 →新型コロナの影響で未実施	30	-
	第1回	10月9日(金)	バスで道の駅京丹波味夢の里 へ、車内での交流	25	11
	第2回	11月29日(日)	宇治市中央公民館会議室でミニ 茶話会と宇治市文化センターに て落語会「桂米朝一門会」鑑賞	35	10
				210	34



(第3回交流企画で歯科衛生士から
コロナ禍での口腔ケアについて聞く)

6. 生活支援体制整備事業を通じての対話と協働による地域福祉の推進

補助
委託

目 標／地域福祉課題の発掘と解決に向けた学び合いの場を創る

取組み／宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(地域版)の展開

宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議の展開

対話と協働を作るための学び合いの場づくり

平成29年度より宇治市から、宇治市生活支援体制整備事業を受託しています。地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するため、生活支援コーディネーター（以下、SC）業務ならびに協議体の設置をすすめています。第1層協議体戦略会議、生活支援体制整備事業事務局会議において、宇治市、宇治市福祉サービス公社（以下、公社）と共に情報共有と協議を行いながらすすめています。

令和2年度は、当会には、SCを第1層に3名、2層に2名配置し、公社には、令和元年度に引き続き2人設置されました。日常生活圏域の見直しによる、地域包括支援センターの増設があり、包括圏域が8圏域となりました。結果、第2層の担当圏域を当会のSCが6圏域、公社のSCが2圏域（中宇治・西宇治）担当することとなりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を思うように進めることができませんでした。しかし、緊急事態宣言が発令され人に会えない日々が続き、人と人とのつながりの大切さを地域の方々自身が痛感されました。そのような中、地域では、ラジオ体操が広がりつつあります。ラジオ体操を通じ、顔がつながり、お互いに気にかけて関係性ができています。令和2年度は、事業を通じ、「人とのつながりの大切さ」を改めて学んだ年となりました。

（事務局会議）

日 時	①令和2年6月12日（金）14:30～16:00 ②令和2年7月17日（金）10:00～12:00 ③令和2年9月30日（水）10:00～11:30 ④令和2年12月4日（金）10:00～11:30 ⑤令和3年3月26日（金）14:00～16:00
場 所	①③④⑤宇治市総合福祉会館 ②宇治市福祉サービス公社中宇治事業所
参加者	生活支援コーディネーター5名（公社2名、当会3名） 宇治市4名 公社1名 当会1名
目 的	生活支援コーディネーター委託業務及び協議体運営にかかわる事項の協議
実施して	年度当初に生活支援体制整備事業の一年間の計画をたてました。生活支援コーディネーターより各事業の実施報告、情報共有を行いました。公社の生活支援コーディネーターからは、健康長寿サポーター養成講座、住民主体Bの通いの場などについての報告がありました。当会の生活支援コーディネーターからは、地域活動やサロン、ラジオ体操への訪問を行い、活動を通して見える地域の状況の報告をしました。

（戦略会議）

日 時	令和3年2月18日（木）9:30～11:00
場 所	宇治市総合福祉会館
参加者	初田座長・山本副座長・生活支援コーディネーター4名（公社1名、当会3名） 宇治市3名 公社1名 当会1名
目 的	「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」（第1層協議体）についての協議
実施して	生活支援コーディネーターの活動報告情報共有を行い、宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議の内容について協議をしました。

（宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（第1層協議体）1回目）

日 時	令和2年8月6日（木）14:00～16:00
場 所	宇治市総合福祉会館 3階 大広間
参加者	健康生きがい課3名 文化自治振興課1名 地域福祉課1名 構成員21名 生活支援コーディネーター5名 公社実習生1名 当会1名

目的	多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進する場とし、市全域における支え合いの仕組みづくりについて検討します。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の振り返り ・令和2年度の生活支援体制整備事業について ・第1層協議体の開催予定について ・第2層生活支援コーディネーターの取組み予定 ・構成メンバーによる情報交換 ①コロナ禍で、日ごろやり取りしている高齢者や利用者、活動者から聞いている声や改めて感じたことについて ②コロナ禍で、新たに始めた取り組みや工夫していることについて
実施して	<p>コロナ禍で、地域の様々な事業や、活動が中止となっていたことが改めてわかりました。そのような中でも、地域では、人と人が、つながろうと色々な工夫をされていました。コロナ禍だからこそ、人と会いたい、話したい、人とつながりたいという思いが強かったように思います。そんな思いを叶えるためには、お互いの情報交換、情報共有が大切になっていくことがわかりました。改めて、人と人がつながっていける「地域づくり」が大切だということが再認識されました。</p>

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体)2回目)

日時	令和3年3月12日(金) 14:00~16:00
場所	宇治市総合福祉会館 3階 大広間
参加者	健康生きがい課4名 自治振興課1名 構成員19名 生活支援コーディネーター5名 公社1名 当会1名
目的	多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進する場とし、市全域における支え合いの仕組みづくりについて検討します。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の活動報告 ・活動紹介 <ul style="list-style-type: none"> ①紫ヶ丘地域での取組み ②生活協同組合 コープ宇治神明店前でのラジオ体操 ・意見交換 テーマ『”場”について、それぞれの立場から、できることを考える』
実施して	<p>参加団体による意見交換では、新型コロナウイルスの感染が広がり1年が経つ中で、現在も、活動を中止していたり、活動場所の会場が使用できないという声がありました。また、巣ごもりや外出の自粛などで、身体レベルが低下し介護度が上がったり、亡くなられた方もいるとのお話もありました。だからこそ、コロナ禍での人と人とのつながり、地域のつながりがいかに大切であるかが再認識される機会となりました。人のつながりを絶やさない為には、人とつながる「場」が大切であるということを感じておられ、人とつながる「場」をつくるには、住民と共に地域の関係機関や資源が連携して行くことが大切だということがわかりました。それぞれの視点から「場」についてご意見をいただき、色々な思いを融合することで、支え合いのある宇治市となっていくということを共有しました。</p>

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(地域版) 槇島地域 (第2層協議体)

「槇島学区“つながる・集う”を感じる」地域交流会 1回目

実施日	令和2年9月17日(木) 第1部 10:30~12:30 第2部 14:00~16:00
場 所	槇島地域福祉センター
参加者	(第1部) 槇島地域の皆さん9名 北宇治地域包括支援センター1名 宇治市3名 社協1名 生活支援コーディネーター3名 社協実習生2名 (第2部) 槇島地域の皆さん11名 北宇治地域包括支援センター1名 宇治市3名 社協1名 生活支援コーディネーター3名 社協実習生2名
目 的	「槇島さろん連絡会」を中心に、槇島地域でのつながりや支え合いの地域づくりについて共に考える機会とする。サロンを通して、地域の困りごとを話し合える土壌づくりを行う。
内 容	・令和元年度のふりかえり ・ミニ講演 講師:元龍谷大学 教授 岡野 英一氏 ・意見交流 ①コロナ禍でやってこれたこと、今もやっていることを思いつくまに出し合ってみましょう。 ②サロンで培ったものを生かして、「これだったらできると思うこと」、あるいは「やってみようかなと思うこと」を話し合ってみましょう。
実施して	岡野先生のミニ講演では、制度の説明を交えながら、今後の地域社会についてのお話がありました。コロナ禍で、サロンを開催されているところ、されていないところがありますが、活動休止中のサロンでは、利用者に電話をかけたり、手紙を書いたり、マスクなどをポスティングするなど、様々な工夫をして、地域の人と人とのつながりを絶やさないようにされているところもありました。また、日常においても、常に声掛けや、あいさつをされていました。いつもより遠回りにして、見守りを兼ねて散歩をしたり、ポストに新聞は溜まっていないだろうか普段以上に気にかけておられる話を聞き、人と人とのつながりを大切にされていることを全員で共有できました。

(やまびこ~紫ヶ丘を住みやすくする会~)

日 時	①令和2年11月12日(木) 14:30~15:30 ②令和2年12月4日(金) 14:00~15:30 ③令和3年1月29日(水) 13:30~15:00 ④令和3年3月1日(月) 10:00~11:30 ⑤令和3年3月15日(月) 10:00~11:30
場 所	①さわらび園 ②~⑤紫ヶ丘集会所
目 的	身近な場所に買い物先が無いという地域の問題をきっかけに、自分たちの住む地域について学びながら、住民同士の支え合いのある地域づくりについて考え、取り組んでいくことを目的とする。
参加者	紫ヶ丘地域にお住まいの皆さん
内 容	①専門職との協議 ②住民との地域探索 ③住民との地図おこし ④、⑤今後に向けての意見交換

実施して	<p>榎島地域包括支援センターが、地域の課題を情報収集した結果、その解決策の方法のひとつとして移動スーパーの情報提供をされ、駐車スペースを探すことをきっかけに、話し合う場が始まりました。話し合いを重ねる中で、買い物だけでなく、困りごとがいくつか上がり、継続して話し合う「場」として『やまびこ～紫ヶ丘を住みやすくする会～』が立ち上がりました。</p>
------	--

(北畠ラルゴ木幡) (北畠懇談会(仮称)全体会ミーティング)

日時	<p>(懇談会)</p> <p>①令和2年6月12日(金)10:00~11:30 ②令和2年7月10日(金)10:00~11:30 ③令和2年8月7日(金)10:00~11:30 ④令和2年9月2日(水)10:00~11:30 ⑤令和2年10月2日(金)10:00~11:30 ⑥令和2年11月6日(金)10:00~11:30 ⑦令和2年12月11日(金)13:30~15:00 ⑧令和2年1月22日(金)10:00~11:30 ⑨令和3年2月19日(金)10:00~11:30 ⑩令和3年3月19日(金)10:00~11:30</p> <p>(勉強会)</p> <p>令和2年10月16日(金)(1回目)10:00~(2回目)13:30~</p>
場所	木幡北畠集会所
目的	地域の中でお互いができることを共に語れる場をつくり、支え合いのある地域づくりを進める
参加者	木幡北畠地域の住民
内容	支え合いのある地域づくりを進めるための意見交流 カードを使って地域の中での支え合いについてのイメージ作り
実施して	東宇治北地域包括支援センターから、小地域包括ケア会議であがった「地域課題」について、課題解決のための仕組みづくりと一緒に考えたいという相談があり、地域住民を交え、生活支援コーディネーター、地域包括支援センターが連携しながら話し合いを重ねました。

(小地域包括ケア会議への参加)

圏域	日時	場所
東宇治北	令和2年8月7日(金)16:00~16:30	宇治市総合福祉会館
	令和2年9月1日(火)10:00~12:00	宇治市総合福祉会館(ZOOM)
東宇治南	令和2年11月26日(木)14:00~16:00	東宇治地域福祉センター
南部・三室戸	令和2年11月13日(金)14:00~16:00	宇治市職員会館
北宇治	令和2年11月4日(水)14:00~15:30	小倉明星園
西宇治	令和2年8月25日(火)10:00~12:00	西小倉地域福祉センター
	令和2年11月25日(水)10:00~11:30	
南宇治	令和2年12月17日(木)14:00~16:00	平盛デイホーム

各圏域の小地域包括ケア会議に出席し、関係者間のネットワークの構築を行い、地域の活動、担い手、地域課題の把握に努め、地域のニーズに合わせて当会が実施している事業の紹介等を行いました。また、住民や地域包括支援センターと共に定期的に話し合いを続けている圏域もあります。

（「気かけ合う地域づくり」勉強会の実施）

講演先	日時	場所
ホットサロン月夜	令和2年10月21日(水)13:30~15:00	榎島町月夜朝日プラザ集会所
北畠ラルゴ木幡	令和2年12月11日(金)13:30~15:30	木幡北畠集会所
歌笑会	令和3年12月22日(火)10:00~12:00	東宇治地域福祉センター
北榎ハーモニー	令和3年 2月5日(金)10:00~12:00	グリーントウン榎島中央集会所
羽戸山おやじサロン	令和3年 3月6日(土)16:00~18:00	羽戸山集会所

お互いに気かけ合う地域づくりの大切さを知っていただき、支え合い助け合いの地域づくりを考えるきっかけになっています。



（各地での気かけ合う地域づくり勉強会）

（ラジオ体操への聞取り）

場所	日時
平尾台第1児童遊園	令和2年 7月29日(水)8:00
蛇塚児童公園	令和2年11月17日(水)7:00
南陵第2児童公園	令和2年11月17日(水)7:20
コープ宇治神明	令和2年11月17日(火)8:10
南山公園	令和2年11月27日(金)8:30
北畠児童遊園	令和2年 12月 3日(木)8:30
平盛団地第2集会所前	令和3年 1月18日(月)7:00

コロナ禍でも人と人とのつながりを保てる取り組みの一つであるラジオ体操に着目し、地域で展開されている「ラジオ体操」に参加をして、地域のつながりの状況把握を行いました。コロナ禍だからこそ、地域のつながりが大切だという思いで、新たにラジオ体操を始められた地域もありました。宇治市内では、これ以外にも多数の地域でラジオ体操が開催されています。



（各地でのラジオ体操の様子）

7. 一般介護予防事業介護予防普及啓発事業による住民参加型の介護予防

目 標／小学校区で介護予防の取組みをすすめ、地域住民の参画を図りながら介護予防の促進を図る

ボランティアのすそ野拡大を図る

取組み／週1回、20小学校区での介護予防普及啓発事業の取組み実施

介護予防に関するボランティア活動者への学びの場の実施

介護予防普及啓発事業の教室の運営の代表者との対話の場の実施

一般介護予防事業介護予防普及啓発事業（地域参加型Bタイプリハビリ教室）を地域住民とともに運営し、高齢者を主に、地域住民の社会参加の機会の創出を行ってきました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出により、4月、5月の教室が中止となり、利用者、ボランティアの中にも機能低下された人が見受けられました。これを受け、再開後は、各教室にて機能低下防止のための体操の導入、強化を行いました。しかしながら、機能低下による卒業生数が例年以上の人数となる一方、外出自粛の影響のため、新規利用希望者については激減しました。

介護予防に関するボランティア講座は、毎回の定員を減らしつつ、予定通り開催を行い、新たなボランティア活動者の発掘に努めました。

（介護予防普及啓発事業【地域参加型B型リハビリ】開催状況）

教室名	小学校区	実施回数 (回)	利用者 実人数(名)	利用者のべ 人数(名)	ボランティア 実人数(名)	ボランティア のべ人数(名)
ほっこりくらぶ	神明	32	8	213	20	309
さわやかくらぶ	御蔵山	35	5	117	7	139
すこやか広野	大久保	20	6	112	20	232
ニコニコ菟道	菟道	25	9	181	18	271
あったか平盛	平盛	29	11	290	10	128
のんびりくらぶ	西大久保	30	5	120	14	258
みむろど健康教室	三室戸	36	13	309	29	388
なごみ岡屋	岡屋	26	3	53	10	149
ホット大開	大開	35	5	94	11	234
元気おうばく	宇治	36	3	81	18	455
きらきら菟ニクラブ	菟道第二	33	6	97	19	368
ハスの実くらぶ	小倉	36	3	93	22	565
お茶の実クラブ	木幡	25	5	85	15	254
しらすぎクラブ	南小倉	26	7	124	14	253
ふれあい北榎	北榎島	38	12	371	10	333
榎島あすなろ会	榎島	33	11	301	10	291
ぬくもり伊勢田	伊勢田	30	7	142	15	197
南部てんとう虫教室	南部	34	12	171	12	199
スマイル西小倉	西小倉	23	8	151	11	214
フラワー北小倉	北小倉	27	4	58	9	189
合計		609	143	3,163	294	5,426

(宇治市内の介護予防普及啓発事業【地域参加型 B 型リハビリ教室】ののべ人数の推移)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実施回数(回)	817	742	609
利用者のべ人数(名)	6,271	5,259	3,163
ボランティアのべ人数(名)	9,935	8,774	5,426

(ボランティア研修会 開催状況)

日時	① 令和2年 9月29日(火) 10:00~11:30(午前の部) ② 令和2年 9月29日(火) 14:00~15:30(午後の部) ③ 令和2年 11月19日(木) 10:00~11:30 ④ 令和2年 12月22日(火) 10:00~11:30(午前の部) 14:00~15:30(午後の部)
場所	①、②、③、④宇治市総合福祉会館
目的	地域での介護予防に資する自発的な活動の普及啓発と住民の活動の育成
参加者	①26名 ②15名 ③24名 ④19名
内容	①~地域でイキイキ活動を~ みんなで学ぶヨガ ②~地域でイキイキ活動を~ みんなで学ぶヨガ ③~地域でイキイキ活動を~ 「みんなの体操」と「ラジオ体操第1」 ④~サロンにいかそう 新しいつながり方を学ぼう~ ※兼サロン研修会
実施して	参加者は、いずれも熱心に受講されました。介護予防のボランティア活動を実践していく中で、より向上したいという思いに応えることができる内容であったと考えます。コロナ禍で、利用者・ボランティアの身体機能の低下が課題となっている中で、改めてフレイル予防の具体的な取組みの必要性について周知できました。また、ボランティア活動に参加されていない人たちにも介護予防の大切さと地域での取組みを知っていただける機会となりました。



(ボランティア研修会の様子)

8. 若年層への福祉教育の実施

補助
委託

目 標／京都文教大学の授業をきっかけにボランティア活動のすそ野を広げる

取組み／京都文教大学ボランティア演習の取組み

京都文教大学ボランティア演習を通しての大学生のボランティア活動への働きかけ

京都文教大学の科目である「地域ボランティア演習」に関して業務提携を行い、学生のボランティア活動促進に努めました。この「地域ボランティア演習」では、学校支援コース、自己開拓コース、社会福祉コースがあり、当会は社会福祉コースを担っています。

春学期は、新型コロナウイルス感染症の影響により授業が中止となりました。秋学期はコロナ禍ではありましたが、通常通り授業を行いました。学生からは、「初めての体験をする中で、多様な価値観があることを意識できた」「人の話を聞くことが好きだということに気づき、自分の新たな一面を発見した」など、体験したからこそ実感できたことが多かったという声がありました。受入れ団体側からも、学生の参加で新たな風が入るので、ぜひ今後も受け入れをしたいという声をいただきました。

(京都文教大学ボランティア演習の演習実施状況)

春学期(4月8日~7月29日)	秋学期(9月23日~1月13日)	
新型コロナウイルス感染症拡大により中止	団体・施設名	人数
	特定非営利活動法人就労ネットうじみつくすはあつ	1
	ワークセンター宇治作業所	1
	宇治市要約筆記サークル「エコー」	1
	宇治ボランティア活動センター	1
	宇治市社会福祉協議会(学習支援)	1
	合計	5

※宇治市障害児・者父母の会でも、受入れを希望いただいていたましたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防により活動休止となったため、令和2年度の受入れは無しとなりました。

9. 新春福祉のつどいによる住民福祉活動への参加の機運の向上



目 標／福祉活動参加者への敬意を表し、また、地域福祉課題の提起をはかる
取組み／新春福祉のつどいの表彰式典

地域共生社会推進事業を活用した講演会等による地域福祉課題の提起

地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、当会会長表彰及び感謝状を贈呈しました。令和3年1月30日に開催を予定していました新春福祉のつどいに関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。そのため、当会会長表彰の表彰式典及び地域福祉課題の提起のための講演会は中止し、当会会長表彰及び感謝状は記念品とともに受賞者(表彰状69名、感謝状3団体2名)へ送付しました。

10. 福祉専門職や福祉事業に関わる人たち、社会福祉法人等との連携強化



目 標／社会福祉法人等と課題を共有し、解決を目指す
取組み／宇治市福祉サービス公社や社会福祉法人を巻き込んだ学びの場の提供

各種法人を巻き込んだ福祉人材の確保に向けた場づくり

各種法人の課題を共有する対話の場づくり

福祉専門職や福祉事業にかかわる人たち、社会福祉法人等との連携を強化するとともに、宇治市福祉サービス公社と取り組んできたプロジェクトを発展させ、他事業所を巻き込んだ取組みを行うこととしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度の合同勉強会(令和2年3月31日)を中止して以降、取組みには至っていません。

11. 他機関との連携による子育て世代への働きかけと地域福祉活動へのきっかけづくり
 目 標／NPO 法人等と連携し当事者の視点を大切にしながら子育て世代への地域福祉活動へのきっかけづくりを行う

取組み／NPO 法人等と連携した子育て支援事業の展開
 中学生と赤ちゃんのふれあい交流事業

NPO 法人との連携による子育て中の親子の出会いの場、相談の場づくりとして、1歳になるまでの子どもを持つ親を対象とした、赤ちゃんサロン・広場・パークを開催しました。令和2年度は、緊急事態宣言中は開催を中止し、宣言解除後は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、従来の大型マットでなく、個別マットを配布して、参加者同士の距離を空けながらの開催としました。密になることに注意しながら、参加者の気持ちをほぐすプログラムと小グループでのおしゃべりタイムを設け、参加者同士の交流の場づくりを行いました。10月から12月の赤ちゃんパーク・広場・おしゃべりキャッチボールでは同志社女子大学看護学部看護学科の学生を実習生として迎えました。大学側として、コロナ禍で病院等の医療機関への実習受入れが断られ苦慮されていましたが、大会として、事業での受入れを通じて地域での子育て支援のあり方や、実際の親子のふれあいの様子、親の喜びや悩みに触れる機会を提供できました。

(1) 「赤ちゃんサロン・広場・パーク」の実施（「NPO 法人子育てを楽しむ会」と共催）

NPO 法人との連携による子育て中の親子の出会いの場、相談の場づくりとして、1歳になるまでの子どもを持つ親を対象とした、赤ちゃんサロン・広場・パークを開催しました。

参加者の気持ちをほぐすプログラムの後、交流を促すフリートークの時間を設けるほか、小グループでのおしゃべりタイムを設け、参加者が自然と交流しやすくなるような工夫をしています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、参加者数は減少しましたが、参加者からは、「テレワークが増え、夫が家にいる時間が増えたことでの環境の変化があった」や「これまで参加していた子育て関係の催しが中止になり行き場所が減ったので参加した」という、例年とは違う声もありました。

(赤ちゃんサロン・広場・パーク開催実績)

名 称	赤ちゃんサロン	赤ちゃん広場	赤ちゃんパーク
対 象 (市内在住に限る)	妊婦および1ヶ月から4ヶ月の赤ちゃんとお親	5ヶ月から8ヶ月の赤ちゃんとお親	9ヶ月から12ヶ月の赤ちゃんとお親
日 時	原則 毎月第4木曜日	原則 毎月第1金曜日	原則 毎月第3金曜日
	10:00~12:00		
実施場所／参加費	宇治市総合福祉会館／参加費 200 円		
実施回数	9回	9回	9回
参加状況 (スタッフ延べ数: 保育 サポーターは含まず)	47組 (43名)	88組 (45名)	97組 (49名)

※5月は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により開催中止

(赤ちゃんサロン・広場・パーク参加者の推移)

(単位:組)

	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
赤ちゃんサロン	89	70	47
赤ちゃん広場	165	104	88
赤ちゃんパーク	168	95	97
合 計	422	269	232



コロナ禍で個別のマットを使い、密を避けながらの参加者の様子

(2)「おしゃべりキャッチボール」の実施(「NPO 法人子育てを楽しむ会」へ委託)

子育て中の親の悩みに基づいた当事者同士の出会いの場、相談の場づくりとして、おしゃべりキャッチボールを実施しました。

令和2年度は、令和元年度に引き続き「発達が少し遅いかなと不安を感じる子育て中の親」「アレルギーのある子どもを持つ親」「多胎児を育てる親」を対象に、宇治市内の当事者グループや助産師などの協力を得て実施しました。各回のそれぞれの講師に心配ごとの相談ができたり、当事者同士の交流を行うことで、情報の交換や悩みの共感などができ、参加者のリフレッシュの時間となりました。大会としても、活動されている当事者や悩みを持つ方の声が聴ける貴重な機会となっています。同様の悩みを抱える者同士の情報交換などのために LINE 交換でつながるなどの新たなネットワークを築いておられます。

(おしゃべりキャッチボール開催状況)

テーマ	発達が少し遅いかな?と不安を感じる子育て中の保護者	アレルギーの子どもをもつ保護者	多胎児の保護者
対 象	市民全般		
日 時 10:00~11:30	① 6月11日(木) ② 10月1日(木) ③ 2月18日(木)	① 7月2日(木) ② 11月12日(木)	① 8月7日(金) ※5月中止分の代替開催 ② 9月10日(木) ③ 12月3日(木) ④ 3月4日(木)
実施場所・参加費	宇治市総合福祉会館/無料		
親子数(参加者数)	① 2組(4名) ② 2組(3名) ③ 3組(4名)	① 1組(2名) ② 2組(4名)	① 4組(13名)うち妊婦1組 ② 6組(18名)うち妊婦1組 ③ 3組(9名) ④ 5組(7名)うち妊婦1組

(3) 子育てサークルなどへの情報提供および広報

子育てサークル見学希望者との連絡調整及び相談に対応しました。現在、子育てサークルの調整は、宇治市子育て支援機関センターが窓口となっているため、当会に連絡があった際には、子育て支援基幹センターへとつないでいます。サロンとして活動をする団体への調整は、当会において実施しました。

宇治市総合福祉会館に常設している子育て情報コーナーで市民向けの各種情報を提供しました。令和元年度から、SNSでの情報発信や、子育て情報誌の内容を google カレンダーで表示できる広報手段を導入していますが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防の影響により参加人数の制限や各種団体の催しが中止となったことを考慮して、掲載を控えました。

(4) 中学生と赤ちゃんの交流事業への協力

乳児から2歳頃までの赤ちゃんと親が「赤ちゃんボランティア」として中学校を訪れ、中学3年生と交流をはかる事業です。これまで、当会では、ボランティア募集、連絡調整、当日のサポート、実施後のフォローを行ってきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、各中学校での開催は全て中止となりました。3年生の生徒さんや過去の赤ちゃん交流時に生徒として参加して、今度は母親となって参加できることを楽しみにされていた人たちからも、中止になりとても残念であるとの声が聞かれました。改めてこの事業の大切さを知る機会となりました。

その中で、私たちにできることとして、赤ちゃん交流事業に参加できなかった3年生に対して、NPO 法人子育てを楽しむ会の事業に参加されている方や子育て事業を行っているスタッフからの卒業を祝う一言メッセージを集めて、赤ちゃん交流を予定していた中学校に贈呈を行いました。

12. 高齢者の生きがいづくりを行う老人福祉センターの運営

補助
委託

目 標／高齢者の生きがいづくりと社会参加の機会の創出
取組み／USK サークル事務局としての取組み

歴史健康ウォーク、クリーン運動等の実施
サークルの発表の場の提供

老人福祉センターサークル協議会（USK）サークルの事務局として、高齢者の生きがいづくりと社会参加の機会の提供を行いました。

(老人福祉センターサークル数の推移)

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
サークル数	22	20	20
登録者数	420	392	384

(シルバーウエルネス舞台発表大会・展示発表大会開催の支援)

新型コロナウイルス感染症にかかる対応のため中止

日時	①舞台発表大会:令和2年10月6日(火)10:30~16:00 ②展示発表大会:令和2年9月26日(土)13:00~16:00 令和2年9月27日(日) 9:30~15:00
場所	①宇治市文化センター小ホール ②宇治市総合福祉会館
目的	サークル発表及び作品の展示と交流
内容	①合唱・太極拳・カラオケ・民謡・謡曲・詩吟・三味線・大正琴・社交ダンス ハーモニカ ②華道・茶道・書道・陶芸・ちぎり絵・編み物

(当会活動への協力状況)

(単位:円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
団体会費	43,100	38,200	32,000
ふれあい基金	60,144	67,082	32,334
共同募金	60,602	56,000	61,000
歳末募金	8,900	-	-

USKでは、広く社会福祉へ貢献することを目的に、サークルの参加者から寄付金として当会、ふれあい基金等に寄せていただきました。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言のため福祉会館が休館したため、サークル活動が中止となりました。また、会館後も、活動中止を継続するサークルもありました。

月に一度の代表者会議は、10月から開始しましたが、歴史健康ウォーク・クリーン運動・カラオケ大会・年度末発表大会は中止することとなりました。また、各サークル活動における新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底について協議しました。

13. 障がいのある人の社会参加の支援

目 標／障がい者の社会参加の機会の創出

取組み／身体障がい者デイサービス事業及び移動支援事業(車いすユーザー対象)

身体障がい者デイサービス事業や移動支援事業の展開から、障がいのある人の社会参加の支援を行いました。

(1) 身体障がい者デイサービス事業の実施

補助 利用
委託 負担

身体に障がいのある方が、社会参加の場を得、多くの方と交流ができるよう、卓球バレー、手づくりなど、様々な教室を開催しています。利用者の身体機能の低下も見られる時がありますが、利用者同士の支え合いもある中で、安全面に配慮しながら運営しています。新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言のため、福祉会館が休館となったことを受け、事業を中止しました。参加者からは、この事業でしか外出する機会が無いとの声が聞かれ、貴重な社会参加の場となっていることが再認識できました。7月からは、利用時間の短縮、各部屋の定員、消毒など感染予防対策を講じた上で再開しました。

(各教室の実施状況)

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
教室数	9	8	7
教室開催回数	137	112	90
登録人数(名)	29	45	37
のべ利用者数(名)	564	516	427

(各教室の開催状況)

教室名	年間開催数	登録利用者数	登録利用者内訳				延べ参加者数	1回当たりの参加人数	平均出席率
			肢体	視覚	聴覚	内部			
視覚裁縫	9	3	0	3	0	0	24	2.67	89%
卓球バレー	36	8	7	1	0	0	188	5.22	65%
書道	9	4	2	1	0	1	25	2.78	70%
コーラス	14	10	2	5	1	2	134	9.57	96%
手作り	8	4	1	2	1	0	25	3.13	78%
絵てがみ	7	2	2	0	0	0	7	1.00	50%
遊びでできるリハビリ	7	5	1	4	0	0	24	3.43	69%
合計	90	36	15	16	2	3	427	4.74	

(2) 移動支援事業の実施

車イス利用者にガイドヘルパーを派遣し、外出のための支援を行っています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による2度の緊急事態宣言があり、活動の制限や感染予防策は一年を通して続きました。顕著な収束がみえない中、外出自粛、イベント開催自粛、施設の使用制限が要請され、高齢の利用者や高齢のガイドヘルパーが多い移動支援事業において、新型コロナウイルス感染症のリスクの回避が利用者の外出頻度の減少にも顕著に表れました。

(移動支援事業の状況) カッコ内は男/女

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ヘルパー登録者数(名)	9(4/5)	8(3/5)	8(3/5)
利用登録者(名)	13(9/4)	11(8/3)	10(7/3)
派遣調整(件)	230	190	120
派遣実施数(件)	204	165	103

※新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルは13件ありました。

14. きょうと地域福祉活動実践交流会の開催への参画

目 標／宇治市内の地域福祉実践の再発見と発掘に努める

取組み／きょうと地域福祉活動実践交流会の開催

2011年(平成23年)の全国小地域福祉活動サミット in 宇治を契機に始まった、きょうと地域福祉活動実践交流会は、令和2年度は京都府市町村社会福祉協議会連合会と山城

北エリアの社協（宇治市・城陽市・久御山町）との共催にて令和2年11月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度に延期することとなった中で、改めてコロナ禍での開催に向けての協議を行いました。

(担当者会議)

日時	①令和2年4月6日(水)13:30~15:30 ②令和2年5月11日(月)13:45~14:45 ③令和2年10月15日(木)14:00~15:30 ④令和3年1月22日(金)10:00~12:00 ⑤令和3年3月22日(木)14:00~15:30
場所	①城陽市社会福祉協議会 ②、③、④、⑤ 宇治市総合福祉会館(ZOOMにて参加)
目的	きょうと地域福祉活動実践交流会の開催を通じて、府内の地域福祉活動実践の発展につなげる。
参加者	①京都市町村社会福祉協議会連合会事務局2名 宇治市社協2名 城陽市社協4名 久御山町社協2名 ②、③、④、⑤ 京都市町村社協連合会事務局1名 宇治市社協2名 城陽市社協2名 久御山町社協2名
内容	きょうと地域福祉活動実践交流会の企画内容の検討
実施して	地域福祉活動の担い手が不足していたり、これまで継続されてきた、地縁をベースにした地域福祉活動が固執してしまっていることが、3社協の共通課題となっている中で、活動がいかにか引き継がれていくかということに目を向けるのではなく、なぜ、その活動が必要なのかに改めて着目しながら、人と地域のつなぎ直しをする必要があることが共有できました。更なる高齢化と地域住民や地域課題が多様化している中で、今後の地域福祉活動に必要なことは、多様な地域住民、特に日常の中に不安を抱え置き去りにされがちな人たちが役割や力を発揮できる地域づくりであることが確認できました。

15. 福祉活動拠点の整備と活用



目 標／福祉会館以外の福祉活動拠点の活用とその効果の研究

取組み／理容アズマの空き店舗の活用による地域福祉活動拠点の整備 **(NEW)**

丸紅基金社会福祉助成事業に応募し、「地域福祉活動拠点の整備」として事業採択を受けました。12月17日にリモートによる贈呈式にて155万円の助成金を受けました。コロナ禍の影響もあり、年度内の拠点改修には至りませんでした。利用予定団体と工事請負企業と現場で改修打合せを行い、図面を作成いただきました。助成期間中の令和3年度に着工し、改修を行います。

第3章 各種相談から、生活課題、地域福祉課題の把握と解決を図ります

当会の社会福祉の専門性を活かし、生活課題、地域福祉課題の把握、解決を図るためのコーディネートを行います。

1. ボランティア相談の実施



目 標／ボランティアコーディネートの強化

取組み／ボランティア活動センターとの連携による地域福祉活動の人材育成（再掲）

ボランティアをしたい人、ボランティアの力を必要としている人や団体の双方から、それぞれの思いの相談を受け、宇治ボランティア活動センターと共有しながら、その思いを具体化することに努めました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉施設でのボランティアの受入れが制限されたこともあり、コロナ禍でも活動を継続している当会の介護予防教室やNPO等が行っている子ども食堂、子育て広場とのやり取りを通じてボランティア活動者の受入れ調整を行いました。また、ボランティア団体による各種ボランティア養成講座やボランティアマッチングサロンの紹介を行い、「何か活動してみたい」と希望する方の思いが、まずは何かの活動につながるようコーディネートすることに努めました。

（担当職員による月別ボランティア相談件数の推移）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	3	6	19	37	29	22	34	18	9	7	16	27	227

※相談件数には、初回相談以降の対応件数を含む。（初回相談月にまとめてカウント）

（担当職員によるボランティア相談件数の推移）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
件数	200	189	227

（相談者の属性（所属））

（単位：名）

個人（一般）	個人V登録者	Vセンター登録団体	学区福祉委員会	ふれあいサロン	ボランティアグループ	当事者団体
60	3	4	0	0	5	1

福祉施設	自治会・町内会	学校	福祉関係機関	行政	企業	その他	合計
4	1	1	12	3	0	3	97

2. ふれあい福祉センター相談事業の実施

目 標／生活課題や地域福祉課題の把握と解決を図る
解決に向けた寄り添い支援

取組み／福祉なんでも相談の実施

専門相談(社会保険、多重債務・成年後見、登記、法律)の実施

ふれあい福祉センターに寄せられる専門相談の内容から、時代情勢の把握に努めるほか、福祉なんでも相談を通じて、相談者の声に寄り添い、社会資源へのつなぎだけでなく、社会参加の場へのつなぎなども行ってきました。

専門相談のほか、福祉なんでも相談などで相談者の課題解決に寄り添っています。必要に応じて、他機関、ボランティア団体等につないでいます。相談は、1回の相談で終わらず複数日、連日にわたって対応している方もあります。知り得たニーズを個別だけの課題だけでなく、地域の課題として捉え、解決に向けて、生活支援コーディネーター、地域担当者、他職種等とも連携し、まちづくり、地域づくりに努めています。

なお、福祉なんでも相談で多かった相談項目は、①健康・精神、②福祉(高齢者・障害者)、③相続・財産、④生計、⑤家庭内トラブル、⑥結婚・離婚、の順でした。昨年度4番目に多かった「健康・精神」は令和2年度では7月より毎月相談件数が増加し、最も多い相談となりました。

※新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した世帯の生活費についてのご相談は、貸付相談に含まれています

(各相談の相談件数の推移)

(単位;件/日)

	福祉なんでも 相談	法律 相談	登記 相談	年金・社会 保険相談	多重債 務相談	成年後見 相談	合計	開設日
平成30年度	98	359	139	4	24	9	633	244
令和元年度	258	363	105	7	17	11	761	241
令和2年度	157	332	97	6	13	3	608	243

3. 貸付相談の実施

目 標／貸付相談から見える生活課題、地域福祉課題の把握

取組み／くらしの資金の貸付、償還相談
生活福祉資金の貸付、償還相談

貸付相談や償還相談から生活課題を把握し、関係機関と連携しながら不安を抱える世帯への支援に努めました。

(1) 生活福祉資金貸付の実態

生活福祉資金では、日常生活上で一時的に資金が必要になった場合に、世帯単位での貸付を行っています。例年はその多くが教育支援資金となっていますが、令和2年度においては令和元年度と比べ申請件数が減少しました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により、生活資金にお悩みの世帯に対し必要な生活費用等の貸付を実施しました。これは通常の40倍以上の件数となっており、特にスピーディーな対応が求められました。当会に寄せられた相談のうち市内1,167/75,825世帯(約1.53%)が緊急小口資金の

貸付決定となっています。うち、約 76%が引き続き総合支援資金を申込み、さらに、その 75%は 3 か月間の期間延長の決定に至っています。

申込世帯の特徴からは、年金が少ないことからの 70 代の働き手の多さ、70 代の親と 40 代を中心とする就職氷河期世代の非正規雇用の子どもからなる世帯の多さ、一般の生活福祉資金の相談と異なり若年層からの申込みの多さなどが浮き彫りになってきました。

商工会議所分類による業種別に相談件数をみると、飲食・宿泊業に次いで建設業関係、運輸業の順で高くなっており、生活関連サービス業の理美容や小売業への影響も大きくなっています。また申込全体の約 3 割が個人事業主にあたります。

従来の貸付相談と異なる点は、通訳や翻訳等の意思疎通に時間を要する外国人対応が約 50 件あることと、20 代から 30 代の若年層からの相談増が顕著であることです。

当初の貸付申込期間は、令和 2 年 3 月 25 日から 7 月末となっていました。感染者の増加、小中学校等の一斉休校、緊急事態宣言の発出等に伴い、影響は経済活動や日常生活を直撃し、申請期間は令和 3 年 6 月 30 日までに延長されました。

(生活福祉資金貸付実施実績)

資金種別		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
総合支援 資金	生活支援費	0	0	0	0	1	420,000
	生活支援費(増額)	0	0	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
	住宅入居費	0	0	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金		0	0	0	0	0	0
福祉資金	生業	15	10,859,386	10	1,845,172	2	260,125
	技能習得						
	療養						
	一般福祉						
	緊急小口	2	183,000	3	300,000	3	300,000
教育支援 資金	教育支援費	61	32,033,000	45	15,601,000	24	8,932,000
	就学支度費	54	19,795,000	38	14,357,000	22	9,114,000
不動産担保型生活資金		1	11,844,000	0	0	0	0
合計		133	74,714,386	96	32,103,172	52	19,026,125

(生活福祉資金 特例貸付実施実績) ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う特例措置

資金種別	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
緊急小口資金	/				1,407	275,980,000
総合支援資金					1,028	561,760,000
総合支援資金(延長)					757	414,560,000
総合支援資金(再貸付)					224	124,500,000
合計					3,416	1,376,800,000

(2) ぐらしの資金貸付事業の実施

年に2回（夏期：7月、冬期：12月）に低所得者世帯を対象にぐらしの資金の貸付（10万円限度）を実施しました。また、5月、9月、1月の年3回、残額通知と督促状を発行して、貸付者への連絡を行いました。貸付世帯の多くがひとり親家庭や高齢者の独居世帯などであり、保証人等を必要としない本貸付を活用しながら生計の立て直しを図っているケースも見受けられます。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業により、夏期、冬期とも件数が増加しました。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、民生児童委員への相談を経由せず、郵送による申込みとなりました。

(ぐらしの資金貸付件数)

(単位：件)

年度	夏期	冬期	合 計		貸付事由							
			件数	金額 (円)	生活費	医療費	借金返済	失業	交通事故	養育	その他	
平成30年度	8	14	22	2,080,000	20	0	0	1	0	0	0	2
令和元年度	6	9	15	1,440,000	13	2	0	0	0	0	0	0
令和2年度	14	23	37	3,650,000	35	1	0	0	0	0	0	1

4. 福祉サービス利用援助事業の相談支援と成年後見制度利用促進法に基づく支援の仕組みづくりの検討

目 標／生活課題や福祉課題の発掘と解決を図る

取組み／福祉サービス利用援助事業実施

生活支援員の資質向上とすそ野拡大

成年後見制度利用促進法に基づく支援の仕組みづくりの検討

福祉サービス利用援助事業の相談、支援から生活課題を把握し、解決に努めました。また、成年後見制度利用促進法に基づき展開される取組みからも生活課題の共有等に努めました。

(1) 契約状況

(実契約者数) 生・生活保護世帯 非・非課税世帯 他・その他の世帯

(単位：名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
平成30年度	8	1	1	1	6	1	9	16	0	0	0	0	18	23	2
令和元年度	9	4	1	0	4	2	8	18	0	0	0	0	17	26	3
令和2年度	11	7	2	2	9	2	7	18	1	0	1	0	20	35	5

※平成30年度新規契約者(精神障がい、生活保護世帯)のうち、1名は成年後見人との再契約者

(新規利用者)生・生活保護世帯 非・非課税世帯他 他・その他の世帯

(単位:名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
平成30年度	2	1	0	1	1	0	2	6	0	0	0	0	5	8	0
令和元年度	3	3	0	0	1	0	3	2	0	0	0	0	6	6	0
令和2年度	4	6	1	2	5	0	1	2	1	0	1	0	7	14	2

※令和元年度新規契約者(知的障がい者世帯)のうち、1名は成年後見人との契約者

※令和元年度新規契約者(精神障がい、生活保護世帯)のうち、1名は成年後見人との再契約者

高齢者の新規利用者の増加理由として、コロナ禍で、遠方の家族などの親族支援が困難となっている状況であることが挙げられます。また知的障がい者の新規利用者の増加理由は、施設(児童施設からの移行を含む)を退所した若年層の利用者が増えていることが要因となっています。

(2)相談調整等の件数の推移

支援開始をして、生活支援員の定期的な訪問のみならず、当会への電話での不安の訴えなどがあるケースも多くあります。そのような場合では、関係者と協議の場を持ち、支援方針等を統一しながら連携と互いの役割の確認をしながら関わっています。

(相談・連絡調整活動の実施状況)

(単位:回)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
平成30年度	297			270			1,965			7			2,539		
令和元年度	825			477			2,600			4			3,906		
令和2年度	1,379			709			2,866			43			4,997		

(3)生活支援員の資質向上と相互交流・啓発による支援員増員

福祉サービス利用援助事業における「生活支援員」に対して、利用者への相談援助を学ぶための生活支援員新任研修および現任研修(いずれも京都府社会福祉協議会主催)への参加を呼びかけました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため新任研修は令和2年11月30日に動画配信で宇治市総合福祉会館にて実施。3名が参加されました。同様に現任者研修は令和3年4月20日、5月31日に行う予定です。支援員同士の交流の「お茶会」は、コロナ禍により中止としました。

(福祉サービス利用援助事業の啓発)

日時	令和2年9月16日(水) 13:30~15:30
場所	宇治市生涯学習センター
目的	福祉サービス利用援助事業の啓発
内容	宇治源輝人講座にて、生活支援員が健康長寿サポーターとしての活動発表
参加者	宇治市福祉サービス公社主催 宇治源輝人講座受講者
実施して	生活支援員以外の活動もしているという人のつながりを活かしていただき、他事業の場で福祉サービス利用援助事業についてのPRができました。

(NPO法人山城権利擁護ネットワーク主催 福祉サービス利用援助事業の啓発)

日時	令和2年11月7日(土) 11:00~12:00
場所	ゆめりあうじ
目的	福祉サービス利用援助事業の啓発
内容	福祉にまつわる制度や施策、当事者の権利を擁護する取り組みについて、当事業の概要や利用者の状況、関わりの中で大切にしていることなどを説明した。
参加者	山城権利擁護ネットワーク主催 法人後見サポーター養成講座 受講者 10名
実施して	当事業の生活支援員への活動についてもお声かけしましたが、生活支援員登録に結びつく人はおられませんでした。

(4) 山城北中部広域社協合同講座(研修や講座等の企画・実施)

福祉サービス利用援助事業を啓発する機会と、専門員の資質向上を目的に、山城北中部の7市町社協(宇治市・城陽市・久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町)と京都府社協との協働で企画を立て、研修や講座等を実施しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため ZOOM で事例検討や情報共有を行いました。

(合同会議)

日時	令和2年9月29日(火)・10月30日(金)・11月27日(金)・令和3年1月29日(金)・3月23日(火) (2月26日は欠席)
場所	宇治市総合福祉会館(ZOOMにて参加)
目的	福祉サービス利用援助事業の専門員の資質向上
内容	事例検討及び情報共有
参加者	各市町村社協専門員
実施して	それぞれの市町村の現状を現場レベルで情報共有できることは、今後の事業の推進に役立つものとなりました。またZOOMにて、一同に集まることなく、オンラインで情報共有できることも、移動時間がかからず、時間を有効に使える一助になりました。

(5) 専門員の資質向上

福祉サービス利用援助事業において「専門員」の資質向上を目的に全国社会福祉協議会主催の研修会に専門員1名が参加しました。また、担当職員会議に専門員1名、ブロック別担当職員会議に専門員1名が参加しました。

(令和2年度日常生活自立支援事業専門員実践強化研修会Ⅱ)

日時	令和3年3月29日(月)9:40~15:05
場所	オンデマンド配信 宇治市総合福祉会館
内容	事例検討の視点や手法を学び相談援助職として自らの実践のふりかえりと援助内容に活かして自己検証能力を強化する。課題対応力の向上のため、専門員同士の事例検討の運営・参加の仕方を学び、定期的な事例検討会を開催できるようにする。
参加者	日常生活自立支援事業における業務経験が2年以上の専門員
参加して	専門員として様々なケースと関わってきたなかで、今回の研修は専門員の役割や個別支援で重要な視点、多職種連携の大切さについて改めて考える機会になりました。事例検討を通して、これまでに関わってきた事例と重なる部分が多く、自分の関わり方が適切であったかどうかを振り返る機会になり、専門員としてのスキルアップにつながりました。また、これまでは東京での集合研修でしたが、オンデマンドで受講できるようになり、参加しやすくなりました。

(第1回福祉サービス利用援助事業ブロック別専門員・権利擁護事業担当職員会議)

日時	令和2年12月17日(木) 10:00~16:00
場所	京田辺市社会福祉センター
内容	1. 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度利用促進の取り組みについて 2. 事例検討会
参加者	山城北・中・南ブロックの福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当職員
参加して	地域における権利擁護ネットワークと成年後見制度利用促進の取組みについての情報交換と、事例検討会を行いました。各市町村行政で成年後見制度利用促進の取組みについての内容は異なりますが、社会福祉協議会とより連携が必要になっていく社会背景や、法人後見などを取り組んでいる社会福祉協議会の当事業とのすみわけについての説明がありました。宇治市社会福祉協議会として、今後の取組みは未定ですが、市町村行政との情報交換は必要になっていきます。

(第1回福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当職員会議及び実務研修)

日時	令和3年3月29日(月) 14:00~17:00
場所	宇治市総合福祉会館(ZOOMにて参加)
内容	1. 令和2年度事業報告及び令和3年度取組み方針 2. 実地調査に学ぶ
参加者	各市町村社協の福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当
参加して	法人後見の実施における、京都府社会福祉協議会が担っていく内容や構想案についての説明がありました。宇治市としては、まだどのように進めていくのか未定ですが、京都府の状況について説明がありました。 実地調査については、金銭出納や受領についてのサインや、意思確認と記録の残し方についての説明がありました。宇治市社協の実地調査の際は、指摘されていない事項も、今回の説明では、問題がある内容に当たる可能性がありますので、委託元の京都府社会福祉協議会と協議を重ねていきます。

(6) その他の取組み**福祉サービス利用援助事業 専門員新任研修 職員派遣**

日時	令和2年7月22日(水) 13:00~16:00
場所	京都テルサ
内容	ミニ講座「私が思う福祉サービス利用援助事業」 座談会
参加者	各市町村社協の福祉サービス利用援助事業新任専門員
参加して	ミニ講座で専門員としての視点について話をしました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためグループワークではなく、担当事例の報告となりました。

(7) 成年後見制度利用促進法に基づく支援の仕組みづくりの検討

令和2年度は、特に行政からの動きがなく、検討にまで至りませんでした。

5.生活課題の把握と生活課題に向き合う団体の活動支援



目 標／団体の運営支援からの団体ニーズの把握

団体の活動支援からの生活課題、地域福祉課題の把握

取組み／赤い羽根コラボ助成等の相談

各種民間助成金の案内・申請のサポート

宇治市共同募金委員会の事務局として、助成相談を受ける中で生活課題や地域課題の把握を行うとともに、その支援に向き合う活動者や団体の支援を行いました。

(1) 赤い羽根コラボ助成金

当会の助成金制度として、赤い羽根共同募金の配分金を活用し、平成26年度より「赤い羽根コラボ助成金」制度を実施してきましたが、平成30年度からは、宇治市共同募金委員会が直接募集・審査・助成を行う仕組みに変更され、運営・実施をされています。実際の募集事務等は募金委員会の事務局を併せ持つ当会が行っています。助成金相談を入口にしながら、福祉活動団体の状況把握や課題についての情報収集を行うことが当会として必要と捉えており、活動や事業の原資となる共同募金運動との連動性を大切にして相談対応をしています。

令和2年度は、申請当初から新型コロナウイルス感染症の影響で、事業が実施できるか分からないといった声もあり、実際の申請も令和元年度より少なく、また助成決定を受けたものの、事業が実施できずに返金になるケースも複数ありました。そのような状況への対応として、事業の申請内容に変更があった場合でも、柔軟に対応することに努めました。

助成金の申請受付をすることで、活動に必要な事柄を捉え、活用できる他制度等を情報提供したり、活動場所の発掘や確保に努めるなど、助成金交付後も活動団体の方と接点を持ち、活動の支援に関わっています。

相談を頂いた内容を元に、団体同士のコラボレーションを生み出したり、ネットワークを広げていくことを大切にしたいと考えています。今後は、民間助成金の情報や、団体との連絡も、よりスムーズに行えるよう、ICTを活用しての情報発信や情報共有の方法を検討します。

(赤い羽根コラボ助成金の助成状況)

年度	申請額(円)	決定額(円)	申請事業件数		決定件数	新規団体
平成30年度	3,858,000	3,481,000	運営費	16	15	5
			事業費	67	65	2
			新規事業	6	3	2
令和元年度	4,059,000	3,448,000	運営費	23	20	0
			事業費	69	69	0
			新規事業	4	1	0
令和2年度	3,263,000	3,263,000	運営費	18	18	1
		※確定金額	事業費	56	56	1
		2,229,050	新規事業	5	5	3

(赤い羽根コラボ助成金の助成内訳)

	団体名	事業名	助成決定額(円)	助成確定額(円)
1	グリーンボランティア「あめノ子花」	運営助成	20,000	20,000
2	宇治市肢体障害者協会	運営助成	20,000	20,000
		市民とのふれあい	50,000	0
		卓球バレー交流会	50,000	0
		パソコン研修会	50,000	0
3	宇治市字幕つけサークルトロ	運営助成	10,000	10,000
4	宇治リーディングボランティア	運営助成	20,000	20,000
		視覚障害者向け各種情報の音訳事業	50,000	50,000
		リスナーとURVとの交流事業	50,000	9,000
		音訳ボランティア養成講座事業	20,000	20,000
5	宇治難病患者連絡会	運営助成	20,000	20,000
		難病患者、家族交流会	50,000	50,000
6	まんぷく会	地域交流懇談会	37,000	0
7	わあわあネット	合同交流会	50,000	35,000
		ミニ交流会	50,000	40,000
8	御蔵山わんぱく親子の会	運営助成	20,000	20,000
		御蔵山わんぱく親子の会	50,000	50,000
9	宇治市子ども会連絡協議会	研修活動	50,000	50,000
		新春子ども大会	50,000	0
		仮称 グランドゴルフ大会	50,000	50,000
10	わくわく kyoto	SPACE SHOWTIME vol.6 ～ダンスとアートでハートをつなぐ～	50,000	0
11	宇治市視覚障害者協会	視覚障害者啓発講座	50,000	50,000
		点訳ボランティア養成講座	50,000	50,000
		研修旅行	50,000	0
12	精神保健サロン「元気です会」	精神障がい者サロン運営事業	46,000	46,000
		精神障がい者野外レクリエーション事業	50,000	0
		精神障がい者クリスマス会事業	46,000	46,000
13	宇治市介護者(家族)の会	運営助成	20,000	20,000
		会報「ほのぼの」発行、暑中見舞い、年賀状送付	50,000	50,000
		親睦交流会(介護体験発表とつどい)	50,000	0
		サロンせせらぎ(地域のつどい)	50,000	50,000

14	要約筆記サークル「エコー」	運営助成	20,000	20,000
		機関紙「エコー便り」発行	38,000	38,000
		難聴者コミュニケーション訓練	46,000	46,000
		地域での高齢者サロンにおける聴覚障害者への支援	22,000	22,000
15	宇治手話サークル太陽	ミニ学習会・一日研修会	50,000	5,000
		社会見学(サークル員の手話通訳体験)	50,000	2,000
		新春交流会	50,000	5,000
16	子ども部会 子どもサロン	運営助成	20,000	20,000
17	御蔵山ゆう輪蔵ぶ	わいわい倶楽部	36,000	19,000
18	ことのは	運営助成	20,000	10,620
		障害を持つ子の親のつどい	30,000	0
19	宇治市中途失聴・難聴者協会	機関紙「はと」発行発送	50,000	50,000
		みんなの手話勉強会	45,000	45,000
		聞こえの広場	50,000	43,000
20	ローズマリーの会	ローズマリーの会	24,000	0
21	宇治おもちゃ箱	運営助成	20,000	20,000
22	NPO 法人アウンジャ	運営助成	20,000	20,000
		DV・FV 被害女性の同伴児のための学習支援事業	50,000	50,000
		困難を抱える女性たちのための相談支援事業	50,000	50,000
		困難を抱える女性たちの生活指導事業	50,000	50,000
23	宇治市連合喜老会	機関紙発行	50,000	0
		友愛活動	50,000	50,000
		シルバーリーダー研修会	50,000	0
24	炭山区町内会助け合い 移動支援事業をすすめる会	運営助成	20,000	20,000
25	要約筆記サークル「やまびこ」	運営助成	19,000	19,000
		聴覚障害及び団体への支援	35,000	4,000
		要約筆記者の研修	18,000	6,000
		聴覚障害者と要約筆記の啓発	26,000	7,000
26	宇治市障害児・者父母の会	音楽療法	50,000	40,000
27	宇治市障害者福祉施設連絡協議会	うじ・はんどめいどフェア	50,000	50,000
		市役所ロビーほっとショップ、オープンカフェうじ	50,000	50,000
28	宇治市父子会	父と子のつどい	50,000	0
29	ユニ宇治マンション自治会	敬老会	50,000	50,000

30	炭山地区まちづくり協議会	運営助成	20,000	20,000
31	京都府原爆被災者の会 宇治支部	被爆体験を語る語り部活動	36,000	16,430
		会員会員交流会及び健康相談	19,000	9,000
32	宇治市ろうあ協会	運営助成	20,000	20,000
		第20回敬老会	50,000	46,000
		社会見学	50,000	0
		やまぶき事業	50,000	50,000
33	宇治市連合母子会	歳末ひとり親家庭ふれあい事業	50,000	50,000
34	コンタクトパーソン「結」	運営助成	20,000	20,000
35	宇治手話通訳者協会	運営助成	10,000	10,000
36	平尾台自主防災組織	地域支え合い・ふれあい活動1 (掲示板設置・安心マップ制作事業)	50,000	50,000
		地域支え合い・ふれあい活動2 (既存大型防災倉庫備蓄品の充実・避難所における婦女子と老人子供を守る事業)	50,000	50,000
		平尾台自主防災組織会 専門部門新規設立事業	100,000	100,000
37	宇治市民コロナ支え愛の会	新型コロナウイルス感染拡大防止の為の防御具等の資源提供・情報共有	100,000	100,000
38	特定非営利活動法人 おはな	おやわ食堂 (えんげ料理開発と提供のための準備と実施)	100,000	100,000

(2) 民間助成金の情報提供

福祉活動団体からの相談を受ける中で、生活課題や地域課題の把握を行うとともに民間助成金の情報を案内して、その活動の支援を行いました。令和2年度はコロナ禍で活動を継続する福祉活動団体を支援するための助成金情報も多く、それらを各団体に案内し、申請に必要な推薦文の記入や申請・報告にかかる取りまとめを行うなどのサポートを行いました。

(民間助成金の助成状況) ※本会が事務取扱をして助成決定に至った団体分のみ掲載

助成団体	助成金名	助成団体
みずほ教育福祉財団	第37回老後を豊かにするボランティア活動資金	落合元気アップ教室 槇島ホットサロン
公益財団法人 車両競技公益資金 記念財団	令和2年度高齢者、障がい者の支援を目的とするボランティア活動に対する助成について	小倉学区福祉委員会
社会福祉法人 中央共同基金会	with コロナ 草の根応援助成 ～これからの活動・組織づくりのために～	宇治学区福祉委員会
大和証券福祉財団	令和2年度 ボランティア活動助成	宇治市要約筆記 サークル「やまびこ」

6. 宇治市地域共生社会推進事業の取組み

目 標／生活課題、地域福祉課題の把握とソーシャルアクションをする団体の応援
取組み／地域共生社会推進事業における助成金等の活用

平成30年度に引き続き3年目の事業として、宇治市の補助を受け、「宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業（地域共生パイロット事業と公募型地域福祉活動支援事業）」を推進し、福祉課題解決の一助としました。

このうち、「公募型地域福祉活動支援助成金」については、①子どもの貧困、②ひきこもり、③地域福祉活動の担い手確保を対象（分類）とする事業に対し、助成金を交付しました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、特に、市民の思いから派生した多職種連携チームによる、マスクや防護服などの不足といった、暮らしの中での困りごとに対しての資源提供や情報提供をする仕組みづくりの取組みに着目しました。

(1) 宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業「公募型地域福祉活動支援助成金」 (交付実績)

団体名	事業名称／分類	申請内容	交付額(円)
特定非営利活動法人 おはな	おやわ食堂	えんげ料理開発と提供のための準備と実施	150,000
宇治市民コロナ支え愛の会	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為の 防御品等の資源提供・ 情報共有	多職種チームによる地域を支える仕組みづくり	150,000

(合計 300,000 円)

(2) 「ボランティア活動への参加に関するアンケート調査」の実施について

地域社会の中で、みんなが役割を持ち、地域社会の中で「自分らしく」役割発揮し、暮らしていけることを目指すとき、ボランティア活動も社会参加の一つの形態とみなすことができます。その点に着目し、ボランティア活動の実態を明らかにし、コーディネートのある方を考える機会として、ボランティアに関する調査を行うこととしました。

特に、宇治ボランティア活動センターや、当会には、「ボランティアをしたい」という相談が、年間100件近く寄せられています。その多くが、「初めて」ボランティアをしたいという相談です。寄せられる相談から、当会のボランティアコーディネーターは、話を聞き、ボランティア活動や地域福祉活動を紹介しています。また、情報提供を継続的に行うために個人登録を行っていただき、宇治ボランティア活動センターの情報紙「パートナー」を送付したり、ボランティアマッチングサロンをはじめとする行事参加で、ボランティア活動者との「出会い」を積極的に行っています。

一方で地域福祉活動では、「サロンの際に机を出すのが重くてできにくくなってきた」という声や「ボランティアや活動者を募集したい」という声も聴いています。

宇治ボランティア活動センターは、全国的にも珍しい、市民と社会福祉協議会の協働運営による「ボランティアセンター」であり、ボランティア活動の推進の視点に立ち、地域福祉の推進を担っています。宇治ボランティア活動センターの取組みは、住民主体の地域福祉を体現し、ともに地域共生社会を造る活動だといえます。

今回の調査では、宇治ボランティア活動センターの個人登録者を対象に、ボランティア相談の中で、ボランティア活動、登録をしようと思ったきっかけなどを明らかにし、ボランティア活動や地域福祉活動への参加を促すためのプロセスを明らかにすることを目的とします。また、宇治ボランティア活動センターのボランティアによるコーディネートと当会によるコーディネートとの役割と連携について検討するために行いました。

アンケートの結果は、冊子にして協力をいただいた個人登録者をはじめ、関係団体に配布したほか、ホームページに結果を掲載しています。(https://tinyurl.com/4w5rvy75)



← 報告書は、こちらからも読み取れます。

(3) シンポジウム「学生や社会人が参加できるボランティアとは」

アンケート調査を受け、その結果報告と、改めて地域共生社会を実現していくために、地域福祉活動の担い手をどう増やしていくのかを考えるシンポジウムを、宇治ボランティア活動センターと共催で取り組みました。

(シンポジウム)

日 時	令和3年3月14日(日) 14:30~16:00
場 所	宇治市総合福祉会館
目 的	「若い人が入ってくれない」という声と同時に、「若い人は関心がない」、「若い人は忙しいから」という声が地域福祉活動者から多く聞かれました。一方で、若い人が全く活動に関心がないわけではなく、自分たちの興味関心でつながっています。 また、コロナ禍のアンケート調査で、高齢の世代でも ICT などの需要も見受けられるところもあり、ICT に強い若い世代とのマッチングの必要性を感じています。 個人登録者向けのアンケート調査では、回答の35%が活動をしていない実態が明らかになりました。「活動をしたい」をどう活動につなげていけるのかを考えます。
内 容	テーマ「学生や社会人にも参加できるボランティアとは」 ・アンケートの報告 当会職員 土田恭仁子 ・シンポジウム シンポジスト ①個人登録者 ^{かわむらみと} 河村泉杜氏 ②運営委員 根本賢一氏 コーディネーター コミュニティビルダー 原田優香氏 グラフィッカー 株式会社オーティサイト コクリエ・ラボ 奥野美里さん
参加者	オンライン 2 名、会場 18 名、事務局 1 名
実施して	コロナ禍のイベントであり、オンライン参加も可としましたが、オンラインの参加は 2 名にとどまりました。また、オンラインは、無料アプリケーションでの限界も感じました。会場では、グラフィッカーを含めて「対話」を重視した取り組みを行いました。若い世代(20代)も会場には 3 名ほどおられ、まとめの会ではコーディネーターからの声かけで発言をいただく機会も得ました。その中で「若い世代だからこそ、責任感も感じていて、中途半端なことができないので、ボランティアにも気軽に参加しにくい」というような声も聞かれました。思いがあっても踏み出せない、その背景には、踏み出す勇気以上に責任感を感じているからだという意見は、貴重なものであったと感じました。今後のコーディネートのあり方や、若年層への働きかけの参考になる意見が聞かれ、宇治ボランティア活動センターとともに掘り下げていくことができるテーマ設定となり、今後のボランティアコーディネートのあり方を共に考えていききっかけとなったと考えています。



(シンポジウムの様子)

7. 生活困窮者自立支援事業学習支援事業の取組み

補助
委託

目 標／中学生の学習習慣の定着

若年層への福祉活動へのきっかけづくり

取組み／週2回の学習支援事業の実施

生活困窮者自立支援法に基づく中学生の学習支援事業を行うなかで、子どもの貧困に対しての一助になるように努めることを目的に、宇治市から委託を受け、平成29年度より「学習支援事業～うじピョンの学び舎～」を運営しています。定期試験前や夏休み、入学試験前は、週3回開催しました。

中学3年生の生徒に関しては進学に伴う教育支援資金の貸付相談に円滑につながるなど、保護者や生徒と普段から関わりがあることが活かした場面でした。

学習支援員には、中学生が少し先の将来の自分の姿を想像できるように主に大学生に参加をしてもらって活動しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で大学に出向いてのボランティアの募集が行えませんでした。当会に、社会福祉士の実習に来た学生などが、実習が終わった後もボランティアとして参加頂いています。大学生による学習支援員は、事業実施の主旨において大切な存在ですが、人数が増えないことが課題となっています。

(学習支援事業の開催状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	3 (6)	0 (7)	9	9	11	7	9	9	7	9	9	10	92 (13)
参加人数のべ	11 (14)	0 (29)	64	66	78	48	65	65	48	72	65	71	653 (43)
学習支援員のべ	7 (10)	0 (8)	27	28	37	28	35	34	25	34	32	32	319 (18)

※ () 内の数字は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した回数

※事業中止の代替えとして、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意をしながら、各生徒宅を訪問し、学習習慣の見守りを行いました。

(学習支援事業の実施推移)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
回数	100	95	92
参加人数(のべ)	830	712	653
学習支援員数(のべ)	402	327	319

令和2年度は、生徒宅にのべ13回、のべ18名の見守り訪問を行いました。

第4章 法人運営と財源づくりの強化に努めます

社会福祉法人としての法人運営の強化を図るとともに、当会活動の広報周知に努めます。地域福祉活動の推進のための財源づくりや今後の事業・活動の展開について検討の場を設置します。

1. 時代に即した法人運営の強化



目 標／時代に即した社会福祉協議会の運営を進める

取組み／三役会、理事会、評議員会、定期監査の実施

社会福祉法人としての組織強化や当会の広報周知、地域福祉推進のための財源づくり、働き方改革などの時代の情勢に応じた法人運営を行いました。

(1) 三役会、理事会、評議員会の実施

正副会長会（三役会）、理事会、評議員会、監査、評議員選任・解任委員会を適宜開催しました。理事会（5月、10月）、評議員会（6月、11月）に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、決議の省略を行いました。

(三役会の開催状況)

三 役 会	第1回:5月 12日(火) 9:00~12:00 総合福祉会館
	第2回:8月 7日(金) 13:00~17:00 総合福祉会館
	第3回:9月 16日(水) 13:00~10:00 総合福祉会館
	第4回:11月 9日(月) 13:00~17:00 総合福祉会館
	第5回:12月23日(水) 9:00~12:00 総合福祉会館
	第6回:1月 14日(月) 13:30~17:00 総合福祉会館
	第7回:3月 2日(火) 9:00~12:00 総合福祉会館

(理事会・評議員会の開催状況)

理 事 会	第1回:5月(決議の省略) ①補欠評議員の選任候補者の推薦について(3名) ②評議員選任・解任委員会の開催について ③令和元年度事業報告について ④令和元年度社会福祉事業拠点区分決算について ⑤令和元年度収益事業拠点区分決算について ⑥令和2年社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について ⑦一人暮らし高齢者等訪問事業補助金交付要綱の一部改正について ⑧定時評議員会の議案及び決議の省略について
	第2回:11月11日(決議の省略) ①新春福祉のつどいの開催について ②評議員会の議案及び決議の省略について ③目的指定寄附金の配分について

	<p>④令和2年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について</p> <p>第3回:1月26日(火)10:00~11:55 出席理事11名/出席監事1名</p> <p>①職員就業規則の一部改正について</p> <p>②嘱託職員に関する規程の一部改正について</p> <p>③表彰規程の一部改正について</p> <p>④令和2年度 社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正案について</p> <p>⑤第174回評議員会の開催について</p>
	<p>第4回:3月9日(火)10:00~12:10 出席理事11名/出席監事1名</p> <p>①令和2年度 社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正案について</p> <p>②令和2年度 事業計画案について</p> <p>③令和3年度 社会福祉事業拠点区分資金収支予算案について</p> <p>④令和3年度 収益事業拠点区分資金収支予算案について</p> <p>⑤評議員会の選出団体候補について</p> <p>⑥評議員選任・解任委員会運営規程の一部改正について</p> <p>⑦職員の育児休業、介護休業、労働の制限及び短時間勤務等に関する規程の制定について</p> <p>⑧嘱託職員に関する規程の制定について</p> <p>⑨職員就業規則の一部改正について</p> <p>⑩職員給与規程の一部改正について</p> <p>⑪嘱託職員退職手当取扱規程の一部改正について</p> <p>⑫職員の服務に関する規程の一部改正について</p> <p>⑬文書等処務規程の制定について</p> <p>⑭定時評議員会の開催について</p>
評議員会	<p>第1回 定時評議員会(第172回):6月22日(決議の省略)</p> <p><議案></p> <p>①令和元年度事業報告について</p> <p>②令和元年度社会福祉事業拠点区分決算について</p> <p>③令和元年度収益事業拠点区分決算について</p> <p>④令和2年社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について</p>
	<p>第2回 評議員会(第173回):12月23日(決議の省略)</p> <p><議案></p> <p>①令和2年社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正について</p>
	<p>第3回 評議員会(第174回):3月29日(月)14:00~16:15</p> <p>出席評議員31名/出席理事11名/出席監事1名</p> <p><議案></p> <p>①令和2年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算 補正予算について</p> <p>②令和3年度事業計画について</p> <p>③令和3年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算について</p> <p>④令和3年度収益事業拠点区分資金収支予算について</p>

(評議員選任・解任委員会)

実施日	6月4日(木) 9:30~11:30
出席者	評議員選任・解任委委員5名
内容	①第2号評議員(1名)の選任、②第4号評議員(2名)の選任について

(期末監査)

実施日	5月8日(金) 13:30~14:30
出席者	出席監事2名/出席理事1名
内容	①令和元年度 業務監査、②令和元年度 会計監査

(中間監査)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み中間監査は実施しませんでした。

2. 財源づくりの強化に向けた取組み



目 標/収支バランスの検討など、今後の適切な法人運営に向けた財源のあり方の検討
取組み/会員(住民会員、施設会員、団体会員、賛助会員)の募集の実施

1㎡のできる社会貢献事業(収益事業)の実施

寄附金の受入れと基金の適正運用

(1) 会員募集の増強

コロナ禍での会員募集の増強は非常に厳しい状況でした。とくに事業所会費の大幅な減少は、学区福祉委員会の意向を尊重し、当会からの依頼を敬遠せざるを得なかったためです。

住民会費は、緊急事態宣言下の厳しい状況下でもありましたが、町内会・自治会、学区福祉委員会のご協力により、実施時期はずれ込んだものの、令和元年度同様の実績額を維持することができました。

(令和2年度 会員募集の状況) (単位 円)

	当会の会費・寄附金
平成30年度	12,991,148
令和元年度	12,458,359
令和2年度	11,245,116

(令和2年度 会員種別ごとの状況)

(単位:円)

	住民会費	寄附金※	賛助会費	事業所会費	団体会費	施設会費	特別賛助会費
平成30年度	8,724,500	1,539,775	150,572	948,500	534,901	308,000	784,900
令和元年度	8,537,000	1,422,592	210,667	888,000	544,600	306,000	549,500
令和2年度	8,450,500	1,225,064	104,644	301,000	399,908	306,000	458,000

※ここに記載の寄附金額は、住民会員募集時に、1口500円に満たないご協力をいただいた額の合計ですので、決算書記載の経常経費寄附金の額とは異なります。

(2) 1㎡でできる社会貢献(自動販売機設置事業)の推進

企業等の社会貢献を進める観点から様々な法人や事業所、地域の学区福祉委員会等のご協力を得ながら飲料用自動販売機を設置しています。令和2年度は、コロナ禍で公共施設等の利用制限があり、そこに設置する自販機の売上実績が一部減少しました。トータル実績の落ち込みはさほど大きくありませんが、売上実績が伸びず、維持費用の方が上回っている自販機については、設置業者より撤去意向の打診を受けている中で、今後の設置台数の増数は厳しい状況にあります。

(自動販売機手数料収益実績)

(単位:円)

	設置場所	総額
1	(株)ミヤモト	127,940
2	旦椋公会堂	166,898
3	開地域福祉センター	78,653
4	東宇治地域福祉センター	186,302
5	桑田建設	86,381
6	リエゾン宇治おおくぼ	89,228
7	リジェール柳田	219,703
8	マークアップ大久保	110,444
9	デイサービスみやび	105,861
10	ユニチカユニオン宇治	138,098
11	木幡公民館	50,737
12	広野公民館	834
13	ハーモニー東風館	30,608
14	総合福祉会館	19,438
15	あさくら診療所	133,725
16	まごころ西宇治	106,588
17	神明神社	138,304
18	地域福祉支援センター宇治小倉	123,963
19	宇治市役所西側駐輪場	133,660
20	個人私有地(西笠取)	128,384
	合計	2,175,749

(自動販売機設置事業の推移)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
台数	23	20	20
金額(円)	2,058,687	2,224,797	2,175,749

(3) 寄附金の受入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」「災害時支援活動準備金」の適正運用

様々な方からの寄附の受入れ及び「ふれあい基金」「ボランティア基金」の運用による財源確保に努めました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、流通段階で余剰が発生した食品を、子ども食堂などの支援に役立てて欲しいという寄付申し出が増加しました。

(寄附金・寄附物品の推移)

(下段:円)

年度	ふれあい 基金寄附	災害時支援活動 準備金※1	目的指定寄附	寄附物品
	件数・金額	件数・金額	件数・金額	件数・内容
平成30年度	15件 910,298	3件 19,200	2件 110,000	3件 未使用切手、クリアファイル
令和元年度	15件 494,498	2件 14,130	2件 266,000	11件 車いす、はがき・切手、スチールラック、 いす他
令和2年度	28件 510,243	1件 3,000	4件 240,000	17件 玄米、りんご、菓子、マスク・タオル、机他

※会館窓口ふくろう募金等、複数回寄付先は1件とカウント。

※災害時支援活動準備金は、社協会費の2%分を含まず、目的指定寄附として受けた分のみ掲載。

(各基金運用実績)

(単位:円)

年度	ふれあい基金			
	運用益、債券売却益	基金積立	基金取崩し	基金額
平成30年度	889,163	2,010,298	0	196,974,993
令和元年度	12,431,207	1,356,386	0	198,331,379
令和2年度	561,506	1,609,312	0	200,578,241

年度	ボランティア基金	
	運用益、債券売却益	基金額
平成30年度	319,042	121,788,928
令和元年度	2,877,606	121,788,928
令和2年度	266,814	121,788,928

3. 多角的な広報の取組み



目 標／地域福祉活動や生活課題、社会課題を広く周知し、地域福祉への関心を高める
取組み／広報紙の発行

洛タイ新報への掲載による「月イチうじピョンの〇〇な話」の連載

SNS やホームページによる広報の展開

当会活動や地域福祉活動・ボランティア活動に取り組んでいる団体、施設等の情報を社協だよりの発行や、SNS 等を活用した広報、洛タイ新報様のご協力による記事掲載などにより、地域福祉活動や当会の活動を知らない人たちに向け、情報を発信してきました。

(広報紙「社協だより」の発行)

実施日	①6月15日号 ②9月15日号 ③3月15日号
実施場所	市内約80,000世帯にポスティング
実施目的	当会事業の周知および各種団体、活動情報の集約と発信
内容	<p>①特集:新型コロナウイルス感染症拡大を受けてお困りの世帯を支援します・緊急アンケートの実施/令和元年度社協会費、ふれあい寄附金、寄付物品、災害時支援活動準備金協合一覧</p> <p>②特集:赤い羽根共同募金運動(主な助成先、税制優遇措置、インターネット募金)/普段からのつながりづくりで“今”を乗りきろう!・カラダもココロもリフレッシュ、会議も「新しいスタイル」で/令和元年度決算、令和2年度予算</p> <p>③特集:コロナ禍でもつながりづくり/カラダもココロもリフレッシュ/赤い羽根コラボ助成金受付開始・サロン助成金・会費ご協力のお礼/1㎡のできる社会貢献・B型(地域参加型)リハビリ教室案内・宇治市老人福祉センターサークルの紹介・傾聴ボランティア養成講座・ボランティアに関するアンケート報告</p>
実施して	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、「うじピヨンの地元に出かけよう」は、掲載を見送りました。一方で、生活福祉資金特例貸付などを広く周知する機会ではありましたが、期間の定めや入稿のタイミングが合致せず、効果的な広報ができきれないことが課題です。職員提案で始まった、ラジオ体操の情報収集企画は、3件ほど取材依頼などがありましたが、大きなつながりづくりにまでは至りませんでした。広報紙の「対象」の広さと、伝えたいテーマの絞り込みの難しさを感じています。

(月イチうじピヨンの〇〇な話の掲載)

実施日	毎月末(不定期)
実施目的	当会の認知度の向上および、市民に地域福祉・ボランティア活動を伝える。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根コラボ助成金について ・介護者リフレッシュ事業について ・地域共生社会推進事業公募助成金について ・会議にもあたらしい生活様式 ・災害ボランティアセンター(実習生) ・生活福祉資金を知っていますか(実習生) ・つながり続ける交換日記(実習生)
実施して	不定期月末を目標にしましたが、12月以降、記事提供ができずでした。特に、当初は、職員が「地域福祉」について考えて発信する場としてきましたが、最近は行事や事業の「発信」「紹介」「告知」にとどまっていることが課題です。よって、記事提供がしづらくなっているところがあります。より地域福祉の推進として、何を職員が伝えていくのかを再確認し、次年度以降も継続していきます。

4. 人材育成の取組み



目 標/社協役職員としての資質向上

効率かつ効果的な福祉実践への専門性の強化

取組み/職員研修、役員研修の実施

令和2年度は、職員全体での研修は実施できませんでした。外部研修として、京都府福祉人材研修センターの研修などを活用しましたが、コロナ禍でもあり、全国社会福祉協議会の研修については見送る形になりました。一方で、コロナ禍で研修のオンライン化が進みました。ウェビナー開催などには参加できる職員が増え、集合研修では参加できにくい職員も気軽に参加ができるという意味では、コロナ禍のオンライン研修は良かったと考えています。

役職員セミナーをはじめ、市町村社協連合会の会合などにおいてもオンライン化が進んでおり、急速にその準備も必要になってきました。令和3年度も、オンライン型の研修が増えることから、環境整備をしつつ、コロナ禍でも研修研鑽の機会を大切にしていきたいと考えています。

また、令和2年度は、社会福祉士の資格取得のための実習を4名受け入れました。当初は5名を予定していましたが、1養成校から新型コロナウイルス感染症の影響で辞退がありました。社会福祉士の資格取得のための実習受入れは、当会の職員の育成強化の観点や、社会福祉全体の人材育成としても必要不可欠であるとの考えから、コロナ禍でも受入れを行っています。感染症対策には、養成校と連携を密にし、互いに成長しあえることを目標にして、令和3年度以降も取り組みます。

5. 宇治福祉まつり検討委員会の設置

目 標／地域福祉の推進を図る取組みとしての福祉まつりのあり方の検討

取組み／宇治福祉まつり検討委員会の設置と開催 (NEW)

令和元年度に福祉まつりの中止を決定した際に、30年以上続くイベントの中での成果を見直し、時代に即した実施、「協働」と「参画」を促進していくことでより一層の地域福祉の推進につながっていくものをめざしたイベントのあり方を検討する委員会として「宇治福祉まつり検討委員会」が設置されました。

特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、多くの地域での行事イベントが中止を余儀なくされてきました。従来の宇治福祉まつりは、多くの来場者が楽しめる催しが中心であり、「三密」を避けることができないものでありました。会合も緊急事態宣言を受けて見送られ（令和2年4月27日）、1回の実施（令和2年12月1日）になりましたが、対面とオンラインでの併用会議を行う中で、少人数でも「一堂に会する」ことが困難な状況にあることがわかりました。その結果、新型コロナウイルス感染症の様子を見ながらの検討が必要になることを踏まえ、令和3年度も宇治福祉まつりは実施をせず、事務局から時機を見て再度協議の場を持つことになりました。

これまでの地域福祉活動は、「集まって」「顔を合わせて」取り組むことが重要とされてきました。新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、宇治福祉まつりだけでなく、「集まらなくてもできるつながりづくり」のほか、より小さな単位でのつながりづくり活動に目を向けていくことが必要になってきています。そのためには、これまでつながってこなかった人たちや、より小さな単位でともに力合わせができる体制づくりが急務です。

6. 総合福祉会館の管理運営（指定管理）

目 標／地域福祉活動の拠点として市民に活用してもらいやすい施設運営を目指す

取組み／老人福祉センターの運営（風呂等の利用）、会館の運営

利用者アンケートの実施

総合福祉会館の管理

令和2年度は、緊急事態宣言を受け5月末まで閉館をしました。その後は三密をさけるために、部屋や風呂の利用人数制限を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者に手洗い及び消毒の徹底を呼びかけるとともに、アクリル板の設置等を行いました。また、風呂用ボイラーの経年劣化にともない、9月から12月まで入替工事を行い、風呂利用を中止しました。このため、令和2年度は会館利用者と風呂利用者は令和元年度に比べ減少しています。

(総合福祉会館団体利用状況)

(単位:名)

	会館 日数	1階利用計		2階利用計		3階利用計		合計	
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
平成30年度	299	980	8,067	2,225	38,653	1,163	20,358	4,368	67,078
令和元年度	286	787	6,582	2,005	33,954	1,113	19,312	3,905	59,848
令和2年度	254	302	1,602	1,953	20,627	1,028	12,589	3,283	34,818

※1階:身体障害者福祉センター、2階:老人福祉センター、3階:福祉センター

(老人福祉センター個人利用人数)

(単位:名)

	男性	女性	合計
平成30年度	2,308	1,656	3,964
令和元年度	1,988	1,777	3,765
令和2年度	1,853	745	2,598

(浴室利用者数)

(単位:名)

	男性	女性	合計
平成30年度	2,214	1,849	4,063
令和元年度	1,831	1,866	3,697
令和2年度	973	661	1,634

7. 宇治市共同募金委員会の運営と赤い羽根共同募金運動、歳末助け合い募金運動の実施



目 標／共同募金運動の展開を通じて寄附文化の醸成を図る

取組み／運営委員会の実施

審査委員会の実施

推進会議の実施

赤い羽根共同募金運動、歳末助け合い募金の展開

10月1日から3月31日まで展開される赤い羽根共同募金(種別:戸別、グループ、個人、街頭、資材、学校、その他)と、12月1日から12月31日まで展開される歳末たすけあい募金運動を様々な方法で市民に周知しました。

運動を進めるにあたり、宇治市共同募金委員会の事務局として、運営委員会を4回(対面2回、8月12日、3月10日及び書面審議2回)実施して、コロナ禍での募金活動について協議を行いま

した。毎年開催している募金推進会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による報告(1回)を行いました。また、多様な視点から共同募金運動へのご意見をいただくことと、共同募金の配分の透明性を担保するために、審査委員会を3回(対面2回、6月26日、2月25日及び書面審議1回)実施して、共同募金の地域での需要や求められる役割について議論を重ねました。

コロナ禍での募金運動となり、宇治市共同募金委員会として力を入れてきた関係団体による街頭募金運動は実施することができず、啓発のために参加していたイベントも中止となりました。

そのような中であっても、様々な方法で啓発と協力を呼びかけ、民間保育園や学校を中心とした子どもから、ボランティア活動者、高齢者まで、あらゆる世代に募金協力を呼びかけました。

(募金実績)

(単位:円)

	一般募金	歳末募金	合計
平成30年度	10,677,427	7,912,127	18,589,554
令和元年度	10,776,739	7,408,463	18,185,202
令和2年度	9,797,885	6,855,584	16,653,469